

創立
50周年
特集号



TSURUOKA Kosen

CONTENTS

● 校長隨想	2	● 鶴鳴寮	14
● 創立50周年記念事業	2	● テクノセンター	16
● 部活動紹介	5	● 研究室紹介	18
● 学生の活躍	6	● 高専の高度化について	26
● 鶴報 特別号	8	● 國際会議	27
● 留学生の声／留学体験記	10	● トピックス	28
● 海外の工場見学	11	● 女子卒業生の今	30
● 国際交流	12	● 平成25年度の進路状況	31

153 鶴岡高専だより
2014.1



鶴岡高専の50年、 そしてこれから

鶴岡工業高等専門学校長
加藤 靖

鶴岡工業高等専門学校は昭和38年に、豊かな自然に恵まれ、歴史と文化の香り高い、この庄内鶴岡の地に国立高専第2期校として、全国11地区の高専と共に創設され、50周年を迎えました。

周年誌を紐解いてみると、初年度は鶴岡第2中学校の旧校舎を仮校舎としてスタートしたとあります。当時は、実習設備もなく、鶴岡工業高等学校の設備、機械をお借りして工作実習を行つたようです。しかしながら、初年度から工作実習を行ったのは、鶴岡高専だけであったそうです。翌年の校舎移転後もグラウンドが整備されていなかったため、体育の時間を使って学生達自らが整備を行い、授業は『保健体育』ならぬ『土建体育』であったという記録が残されています。

その後、社会の要請に呼応し、学科増設、専攻科設置などさまざまな組織改編を行い、これまでに本科生6,417名、専攻科生196名、海外からの留学生54名の卒業生を輩出し、優れた実践的・創造的人材を育成し、合わせて地域に貢献する高等教育機関として、社会から高い評価を得てきました。

さて、昨年9月8日に2020年のオリンピック・パラリンピックが東京で開催されると、うれしいニュースがありました。56年ぶり、2度目の開催ということになります、1度目は、日本の高度経済成長が始まり、日本中に活気があふれ始めた1964年ですから、鶴岡高専が設立された翌年に当たります。オリンピックを契機に日本の技術力の高さをアピールすべく、その意気込みは大変なものでした。首都高速道路で羽田空港と国立競技場がつ

ながら、東京モノレールが開通しました。東海道新幹線が10月1日に営業運転を開始、オリンピック開催の10日前でした。代々木のプレスセンターに日本初の大型コンピュータが設置され、リアルタイムで競技記録が全世界に伝えられると聞いて、「すごい！」と感激したことを憶えています。

まさに、「高専はオリンピックをトリガーとして発展してきた」ともいえると思います。

いま、こうして50周年を迎える、全国51高専が手を携えて、「国際社会で通用するグローバル人材」、「自ら技術革新できるイノベーション人材」の育成に向けて、新たな道を模索し始めたところで、2度目の東京オリンピック・パラリンピックが開催されることが当たり前になっています。

日本の新たな成長・発展のために、『進化する高専』として、高度化を推進し、実践的・創造的技術者を育成し、『持続可能な技術』、『環境にやさしい技術』を提供して、社会と共に成長していくチャンスが巡ってきたと思います。

“Change! Yes, we can.”を合言葉に、鶴岡高専も、新たな50年に向けて

- ・研究する高専

- ・地域に貢献する高専

- ・国際通用性を有するエンジニアを育成する高専

をビジョンに掲げ、高度化に邁進し、21世紀の中核を担う人材の育成にこれまで以上に積極的に取り組んでまいります。

文部科学時評(H25.10.21)の記事によると、ブリティッシュ・カウンシル^{*1}が開催している国際会議、“Going Global”では、世界の高等教育界においては次の3つの用語が定着しつつあるとありました。

1. Trans National Education (TNE)

高等教育機関が国を越えて教育を行い、受けることが当然になって来ています、学生の国際交流だけでは、もはや時代遅れとなっています。

高専機構でも、英語による講義を実施する準備が整いつつあり、今まで以上に積極的に留学生を受入れ、高専生や教職員の海外派遣を計画しています。

2. Cross-Cultural Skills

経済のグローバル化に伴い、異文化を受入れ、あるいは異文化の地で、異なる文化、異なる宗教を持つ人々と一緒に仕事をするのが当たり前になっています。

最近の日本企業でも海外の大学で学ぶ外国人学生を日本国内の本社社員、幹部候補生として採用する動きが広がっています。国内では理系学生が不足しているのも一因ですが、本社機能をグローバル化したいという狙いがあるようです。採用時に日本語が話せなくても良いという企業まで出始めています。

朝日新聞記事(H25.10.12)によると、H社は2011年から採用数の1割を外国人としています。S社は、採用数の3割を外国人、E社は、2010年から総合職の約半数を外国人、K社は、2009年から全体の1割を目安に外国人を採用、N社は、毎年10人以上を採用、今後採用を2割程度に引き上げる方針、等々です。幹部候補を海外採用し、日本で働かせている企業数は、13年度で6.1%、14年度は9.6%まで伸びると見られています。

3. Employers' Engagement

世界的に企業側のスキルニーズと、高等教育機関で身につくるスキルとのミスマッチが生じており、スキルマッチングを図ることが重要となっています。

本校の状況はどうでしょうか？

Fifty years' history of Tsuruoka NCT, and from now on.
Message from the President of Tsuruoka NCT.

1. については、活性化していると言える状態ですが、更に多くの学生の海外派遣、受け入れを行うとともに、留学生の積極的な受け入れも行って、学内が国際化、グローバル化することを目指していく必要があろうと思います。

2. については、大企業ばかりでなく、すでに庄内地区的企業からも、アイデアが豊富で、創造力、技術力の高いことはもちろんであるが、それらに加えて外国語を駆使したコミュニケーション力のある学生をお願いしたいという要望が高まって来ています。本校には、すでに10名を越える長期留学生が在学し、更には毎年、欧州、アジアからの短期留学生(海外インターンシップ学生)も来校しています。彼らとのコミュニケーションを通して、お互いに異文化を理解し合い、彼らの母国語をたとえ片言でも学んでおくことは、将来の自分の有力な武器となること間違いないです。自分が意識すれば、本校内でもグローバル化の対応は十分です。

3. については、本校の活動でいえば、CO-OP教育です。昨年からキャリア支援室を立ち上げ、すでに活動を開始しています。これは、学生の指導を本校の教授と、企業のエンジニアがタッグを組んで行うもので、実践的・創造的エンジニアの育成のための低学年からのキャリア支援教育です。今後これが普及すれば、ミスマッチを無くすどころか、さらなる地域貢献も期待できると考えています。

鶴岡高専は、これからも“Innovative technology(革新的技術)”、“Attractiveness(魅力)”、“Authenticity(本物であること、確実、信頼性)”をアピールし、より優れた学生を輩出する教育・研究に邁進します。

学生諸君には、鶴岡高専で過ごした時間を大切に、そして誇りにするとともに、本校で学んだ問題解決能力を活かして今後の複雑化、グローバル化する世界をリードする技術者になって頂きたいと思います。

*1. 1934年に設立されたイギリスの非営利団体で、各国における英語の普及やイギリスと諸外国の間の教育・文化交流を目的としている。ロンドンに本部を有し、世界100カ国以上に事務所を置いて活動を行っている。

[創立50周年記念事業]

Commemoration of the Fiftieth anniversary.

記念祝賀会／鏡開き

創立50周年記念式典・祝賀会

創立50周年記念式典

本校は昭和38年4月に国立高等専門学校2期校として設立され、今年創立50周年を迎えました。

10月25日(金)15時からグランドエル・サンにおいて、文部科学省、国立高等専門学校機構、山形県、鶴岡市等からの来賓約200名、学生約200名、教職員約100名、計約500名が出席して、50周年記念式典を挙行しました。

式典では、加藤靖校長から式辞として、50年の歴史を振り返りつつ、今後に向けた抱負が述べされました。

続いて、文部科学大臣(代理文部科学省高等教育局牛尾則文専門教育課長)、国立高専機構小畠秀文理事長、山形県知事(代理佐藤嘉高庄内総合支庁長)、榎本政規鶴岡市長、結城章夫山形大学長、新原暦一長岡技術科学大学長から祝辞をいただきました。

ビデオ紹介では、鶴岡高専50年の歩みとして開校の頃のニュース映像や現在の様子及び卒業生の活躍、校長のメッセージが紹介されました。

同窓会組織である峰友会からは、50周年記念として贈呈され



記念式典／校長式辞

本校の教育研究環境の充実に多大な貢献をいたいた、谷口奈美子様、坂口知永様、峰友会に感謝状が贈呈されました。

学生会長の鈴木貴斗君(物質工学科4年)から、「鶴岡高専の歴史を引き継ぎ、さらに後輩へと繋げていけるよう、気持ちを新たに日々精進していく」と誓いの言葉が述べられました。

最後に、学生・教職員が校歌を斉唱し、盛会に式典が終了しました。

創立50周年記念祝賀会

式典に続いて17時から行われた祝賀会では、加藤靖校長の開会あいさつ、来賓として鶴岡商工会議所早坂剛会頭、峰友会梅津正春会長から祝辞の後、日本舞踊藤間流教授藤間静貴久様の祝舞(長唄)、来賓及び校長による鏡開きが行われ、横山正明山形県立産業技術短期大学校長(本校前校長)による乾杯のご発声で開宴しました。

アトラクションでは、藤間静貴久社中の皆様による「出雲の阿国フィナーレ・念佛踊り」、「花笠音頭」が華やかに披露され祝賀会を盛り上げました。

お祝いにおいていただいた来賓の方々、久々に顔を会わせた教職員など約200名が、懇談の花を咲かせました。祝賀会は阿部雅彦後援会長による万歳三唱で締めくくりました。



文部科学省専門教育課長 国立高専機構理事長 庄内総合支庁長 鶴岡市長 山形大学長 長岡技術科学大学長 学生会長

創立50周年記念事業

平成25年度に創立50周年を迎えるにあたり、本校では、平成23年9月に実行委員会を立ち上げ、準備を進めてまいりました。これまで部分的に紹介したものもありましたが、ここで事業全体をまとめてご報告いたします。

基金の設立

経済活動のグローバル化の進展により、日本人技術者の活躍の場も広がりを見せており、本校でも、国際的に活躍できる技術者の育成を目指し、国際交流事業や海外インターンシップなどを推進しています。そのような学生の活動、また、経済的に困窮する学生のため基金を設立し、学生を支援してまいります。12月末現在で、約920万円のご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。(なお、寄附金の募集は平成26年3月末まで行います。)

記念誌の刊行・DVD制作

創立40周年以降の10年間の本校の歩みをアーカイブとしてまとめた記念誌(冊子及び電子版)を刊行しました。

また、創設時の貴重な映像とともに本校のあゆみをまとめた記念DVDを制作しました。



新たなシンボル

平成23年度には、鶴岡市出身の洋画家 尾形美和 氏の絵画を寄贈(故谷口允名誉教授のご遺族谷口奈美子様より)いただいたことから、創立50周年記念事業の第一弾として、絵画タイトルの公募事業



ト。学内公募で420件の中から、「一人一人が創造したものを集め、学校全体が未来に向かって流れている模様」をイメージした「創紋」(機械工学科4年(当時)會田航士さん考案)に決定しました。この絵画は、本校の新たな象徴として1号館2階に展示されています。

平成24年度には、本校のロゴマークの公募も行い、東京都在住の坂口知永



地域との連携

地域の皆様方に、鶴岡高専をより一層知っていただくための企画として、平成25年10月26日(土)から27日(日)、「鶴峰祭」を開催しました。高専祭や、地域の企業技術展、地域連携シンポジウム、オープンラボなど、鶴岡高専らしい企画を実施し、多くの方にご来場いただきました。(各事業について詳しくは、8ページからの「鶴報」特別号、16ページからのテクノセンターのページをご覧ください。)

～～～～～～～～～～～～～～～～

各事業を実施するにあたり、保護者の皆様、卒業生の皆様、関係企業の皆様をはじめ、大変多くの皆様方のご協力をいただきました。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。

さらなる飛躍に向けて、新しい一步を踏み出した鶴岡高専を引き続きよろしくお願い申し上げます。

[創立50周年記念事業]

Commemoration of Fiftieth anniversary.

- Establishment of the fund.
- Publication of commemorative book & DVD.
- A New Symbol.
- Exchange with graduates.
- Cooperation with local.

さんデザインの新しいロゴマークを採用しました。直線と曲線は、正確さと自由な発想を象徴しており、鶴の飛翔をモチーフに世界に羽ばたき、そして未来を創造できる人になって欲しいという願いが込められています。

平成25年5月には、春の鶴岡高専を彩る新しいシンボルとして、学生、教職員そして地域の皆様に一層親しまれる存在になるよう祈念し、芝桜の記念植栽を行いました。芝桜は、本校の創立記念日4月20日の誕生花でもあります。



卒業生との交流

創立50周年記念事業の実行委員会には、本校の同窓会組織である峰友会からも参画いただき、連携して事業を進めきました。

峰友会からは、ワゴン車を寄贈いただきました。

また、平成25年10月23日(水)には、社会で活躍中の卒業生から学生に講演いただく「未来予想図講座」をキャリア教育の一環として実施しました。卒業生からのメッセージは、ホームページ上でも、卒業生リレーエッセイとして紹介しています。

その他、卒業生を対象とした学校見学会や総会などの事業を実施した他、今後は会報の発行や社会で活躍するOB・OGを紹介する冊子「活躍する鶴岡高専卒業生BIG50」の刊行も予定しています。



ワゴン車寄贈



未来予想図講座

野球部の活動報告

制御情報工学科 4年 阿久津 隼人



ある私たちの面倒を見ていただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

新チームでの活動はもう始まっており、チーム目標は「全国大会出場」です。5年生の先輩方を見習い、良いチームを作っていくたいです。そして、来年の東北大会、全国大会で良い結果が残せるよう、日々練習に励み、精進していきたいと思います。

高専ロボコン東北大会に参加して

機械工学科 4年 宮崎 直希



自分達の作ったロボットが審査の方から高い評価を頂いたことは、部員一同が嬉しく思っています。本年度の反省を生かし、次の大会に向けて頑張ります。OBの方々や会場で声援を送って下さった方々、ライブ配信で応援して下された方々に深く御礼申し上げます。

[表紙について]

剣道部 念願の…

機械工学科 5年 若木 辰心



野球部は7月5日から9日にかけて、鶴岡市の小真木原公園にある鶴岡ドリームスタジアムで行われた、東北地区高専体育大会に出場しました。鶴岡高専は一回戦からの出場で、全国大会に出場するためにはトーナメント戦で3試合勝利し、優勝することが条件でした。一回戦の相手は福島高専で、7対4で勝利しました。準決勝の相手は秋田高専で、7対2で勝利しました。決勝戦、仙台高専名取に4対1で勝利して優勝が決定し、チーム全員が勝利に歓喜しました。また、全国大会出場が決まり、チーム目標である「全国大会出場」が達成され、チームの士気も上がりいました。それから全国大会まで、日々練習に励みました。

8月20日・21日に、秋田県にある秋田県立野球場・八橋硬式野球場で行われた、全国高等専門学校体育大会に出場しました。一回戦は長野高専に14対2で勝利しました。しかし、準決勝で大分高専に1対8で敗れました。

全国大会では、優勝は逃しましたが、全国3位になることができました。東北大会優勝、全国大会3位といった好成績は日頃の練習の賜物であり、また、チームワークや団結力が生んだ結果だと思っています。

主将の阿部将平先輩をはじめとする15人の5年生の先輩方には、いつも優しく、後輩で

ASEBAL

ある私たちの面倒を見ていただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

新チームでの活動はもう始まっており、チーム目標は「全国大会出場」です。5年生の先輩方を見習い、良いチームを作っていくたいです。そして、来年の東北大会、全国大会で良い結果が残せるよう、日々練習に励み、精進していきたいと思います。

2013年10月13日に高専ロボコン東北大会が岩手県一関市総合体育馆にて行われました。今年度のテーマは「Shall We Jump?」と称して、生き物を模した二台のロボットが人間と協力し、縄跳びをしながらフィールドを走るタイムトライアル競技です。

本年度は3,4年生主体のAチーム「山形ふるさと大使」と2年生主体のBチーム「一隻二跳」が出場しました。

Aチームは「オワンクラゲ」をモチーフにしたロボットと「ペロリン」を再現したロボットを作成。寸法制限ぎりぎりの大きさの「ペロリン」は会場でも一際目立ちました。クラゲ型ロボットも、傘の揺れる動きやLEDで光る傘がポイントで、ジャンプした時には会場から歓声があがりました。Bチームは「トピウオ」型ロボットと酒田市と飛鳥間を運航する「とびしま丸」の外観を再現したロボットを作製。トピウオ型ロボットの中には12本のエアータンクを搭載、力強いジャンプと長時間連続動作を実現しました。

Bチームは一回戦、若干のミスはあったものの相手チームより先に進み、二回戦に進出しました。二回戦は敗退してしまいましたが、2年生には良い経験になったようです。

Aチームはジャンプ時の操作ミスにより相手チームに追い越され、初戦敗退という結果でした。しかし、クラゲのリアルな動きと跳躍の高さが評価され、特別賞とアイディア賞のW受賞となりました。

ROBOT CONTEST

剣道部は今年、全国大会が地元開催ということで、それを最終目標として日々稽古に励みました。部員一丸となって辛い稽古や苦しい稽古も乗り越えていくことが出来、それにつれてチームとしての団結力が強くなっていくのを感じ、そのことがまた部活の高い意識につながったと思います。

そうして迎えた東北大会。全6試合の戦いでした。後の試合になるにつれてギリギリの戦いとなりました。しかし、鍛えてきたチームとしての団結力を發揮し戦い抜くことが出来ました。結果、見事優勝を勝ち取りました。そして女子個人も優勝。まさに部員全員で力を発揮した大会でした。

東北大会が終わってからは、すぐに全国大会に向けての練習になりました。日々の稽古と、全国大会に向けての合宿を今まで以上に高い意識をもって取り組むことが出来ました。

そして大会当日。男子団体3位、女子個人準優勝という結果を残すことができました。この大会を目標にしてきた私達にとって、とてもうれしい結果でした。

全国大会が地元開催だった今年、その地元で素晴らしい結果を残すことが出来たことはこれからもさまざまな場面で自信につながると思いました。

各種大会成績

■第48回全国高専体育大会

□バレー・ボール

男 子 3位
女 子 3位

□ソフトテニス

女子個人戦 3位
佐藤 里菜(1B)
齊澤 真帆(1I)

□剣 道

男子団体戦 3位
女子個人戦 2位
宮田 桃香(4B)

□硬式野球

3位

□バドミントン

男子団体戦 3位

■第50回東北地区高専体育大会

□陸上競技

男子110mH 3位
佐藤 尚希(5I)
男子走高跳 3位
佐藤 尚希(5I)
男子円盤投 優勝
安達 拓真(4B)
男子走高跳 2位
佐野 倫瞳(2E)
男子砲丸投 優勝
五十嵐 魁(1I)
女子砲丸投 優勝
石塚まりむ(5B)
女子円盤投 優勝
石塚まりむ(5B)
女子800m 3位
廣井 美和(4I)
女子走幅跳 2位
佐藤 茉緒(1B)
女子走高跳 2位
佐藤 茉緒(1B)

□卓 球

男子団体戦 3位
男子個人戦ダブルス 優勝
井上 貴明(4E)

□剣 道

男子団体戦 優勝
女子個人戦 優勝
宮田 桃香(4B)

□テ ニ ス

男子団体戦 3位
男子個人戦シングルス 3位
八幡 日向(4M)

□バレー・ボール

男 子 優勝
女 子 優勝

□ソフトテニス

男子団体戦 3位
男子個人戦 2位
齊藤 直幹(4M)
志田 昂拓(2E)
佐藤 里菜(1B)
齊澤 真帆(1I)

Students' Activities.

Results of Competitions, such as National Athletic Competition of NCTs, Northeastern Athletic Competition of NCTs, Robot Contest, Brass Band Competition, and others.

柔道

男子団体戦 3位
男子個人戦73kg級 3位

古野 豪人(5B)

硬式野球

優勝

サッカー

2位

バドミントン

男子団体戦 優勝
男子個人戦ダブルス 3位

今井 航大(5B)
工藤 歩(2M)

水 泳

男子400mメドレーリレー 3位
[阿部(2M)・阿部(2E)・小松(5E)・細矢(1E)]

男子800mリレー 2位

[小松(5E)・細矢(1E)・阿部(2E)・小林(2E)]

男子400mリレー 3位

[細矢(1E)・阿部(2M)・阿部(2E)・小松(5E)]

男子100mバタフライ 2位

小松 大悟(5E)

男子200mバタフライ 2位

小松 大悟(5E)

男子200m自由形 優勝

小林 堅斗(2E)

男子400m自由形 優勝

小林 堅斗(2E)

男子800m自由形 優勝

細矢 晃陽(1E)

男子100mバタフライ 優勝

細矢 晃陽(1E)

女子200mメドレーリレー 2位

[後藤(4I)・田村((5I)・石塚(5B)・水口(5I)]

女子200mリレー 2位

[水口(5I)・田村(5I)・後藤(4I)・石塚(5B)]

女子400mリレー 2位

[水口(5I)・田村(5I)・後藤(4I)・石塚(5B)]

女子50mバタフライ 3位

田村 宏恵(5I)

女子100m平泳ぎ 優勝

田村 宏恵(5I)

女子50m背泳ぎ 3位

石塚安沙子(5B)

女子200m自由形 優勝

水口 映花(5I)

女子100m背泳ぎ 2位

後藤 二葉(4I)

アイデア対決・全国高専ロボコン東北地区大会

アイデア賞 鶴岡高専A「山形ふるさと大使」

全日本吹奏楽コンクール山形県大会

大学の部 銀賞



Students' Activities

-Won the third prize at the world competition of TAIDO in Finland.

-Good will

-Tobishima Techno-paramedic.

世界跆道選手権大会で入賞して

専攻科 物質工学専攻 1年 佐藤祐歩



妹(左)といっしょに

跆道は玄制流空手を元に沖縄でつくられた武道です。空手では相手の突きや蹴りを受けや払いで防御しますが、跆道では相手の攻撃を受けるのではなく、体軸を倒したり回転させたりしてかわし、さらにそのかわした勢い自分の突き蹴りに乗せて技にするため、攻撃と防御が一体となった武道です。

8月3日、フィンランドのヘルシンキで第6回世界跆道選手権大会が開催されました。

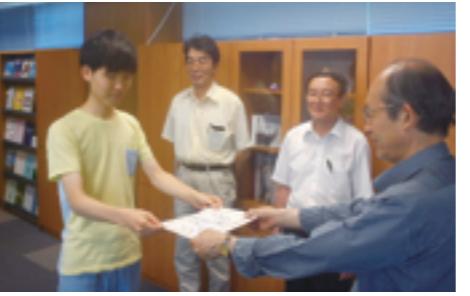
私は女子個人法形競技の部で第3位、また、女子団体方形競技の部で私を含む山形県チームで優勝しました。初めての海外大会だったので不安な気持ちもありましたが、大会当日は日本選手団の応援が心強く、リラックスして試合に臨むことができました。

世界大会を視野に入れた団体のチームを組んで3年間、毎日の稽古に心が折れそうになつたときもありましたが、互いに励まし合って稽古を重ね、チームが団結し上達しているのを感じました。つらい稽古を乗り越え、実際に大会で良い成績を取めることができると、達成感と充実感をチームメンバーみんなで分かち合え、一層跆道を好きになりました。

私が目標にしていたこの大会を満足のいく良い形で終えることができ、本当にうれしかったです。これも、長きにわたってたくさんの方々の協力と支えがあったからこそだと思います。心から感謝したいです。ありがとうございました。

会社員の方に教えられたこと

専攻科 機械電気システム工学専攻 1年 昆憲英



5月14日朝、登校途中で、一人の男性が一台の車を押している所を見かけました。おじいさんとおばあさんが乗っている車のエンジントラブルで、車が動かない状態でした。自分もお手伝いで、安全な所まで車を移動させました。最初に手伝っていた方は会社に行くため、すぐにその場を離れました。私では車の故障を直すことができなかったため、近所の大山ボデーさんに連絡を取り、現場に駆けつけていただきました。その後大山ボデーさん、おじいさんとおばあさんから学校にお礼状が届き、加藤靖校長先生から表彰していただきました。わざわざ学校に連絡を入れてくださった大山ボデーさん、おじいさん、おばあさんのご配慮に、私は恐縮するとともに、たいへんに感激しました。本当に嬉しかったです。今回の体験を機に、どなたかが困っている時に、お手伝いをすることの大切さを、改めて実感しました。もし会社員の方がお手伝いをしていなかったら、自分はそのまま学校に登校していたと思います。忙しい状況にも関わらず、お手伝いを優先されていた会社員の方の判断力と行動力を見習いたいです。このことをいつまでも心に留め、生き方の指針したいと思います。

飛島ボランティアに参加して

制御情報工学科 4年 三浦加織



私たちは、7月27日から30日まで宍戸先生と小野寺先生を筆頭に総勢29人で飛島にボランティアに行きました。27日からの4日間、それぞれ家電修理班、側溝清掃班、自転車修理班、炊事班、看板班に分かれて作業しました。主に地域から依頼された家電を修理したり、側溝や観光用の自転車を綺麗にしたり、手作りの看板を作ったりしました。家電班や看板班は朝早くから夜遅くまで活動し、炊事班はエネルギーになる美味しいご飯を作りました。側溝班や自転車班は手が空いたときには他の班の仕事を手伝い、協力し合うことができました。最終的には、全ての家電は直せなかったのですが、各班がほぼ予定通りに作業を終えることができました。

私は今回が初めての参加でしたが、飛島の方々に親しくお声をかけていただきました。去年の活動の成果がこのような触れ合いに繋がっているのだと実感しました。私は炊事班と看板班を兼任しました。看板はゼロからのスタートだったので、初日は夜の12時近くまで作業をし、次の日も早朝から行いました。ご飯の時間になるとすぐに炊事の仕事に追われて、一日中休む間もなかったです。ですが、他の班の人たちが積極的に看板の色塗りや料理の配膳をしてくれたのでとても助かりました。看板が完成したときはとても嬉しかったです。家電班はもっと大変だったと思います。次から次へとご依頼を受け、家電の1つ1つの故障と向き合いながら毎日夜遅くまで頑張っていました。私は家電を直したわけではありませんが、飛島の方々の喜びの声を聞いて嬉しかったです。

今回のボランティアでは、私が家電や自転車を直したり側溝を綺麗にしたり直接島の方々に何かができるわけではありません。しかし、人様の喜ぶお顔が見られるような職に携わりたいです。

鶴報

KAKUHO
特別号

学生会活動

現在の学生会は、昨年度より人数も増え、1年生から4年生までの計21名で活動しています。

今年度、特に力を入れた活動が「学生会企画」です。学生生活をよりよく過ごしてもらいたいと考え、季節のイベントに合わせ、7月には「七夕企画」、10月には「ハロウィン企画」を実施しました。

「七夕企画」は、今年度初めて取り組んだ企画です。学生・教職員の皆さんのが、それぞれの願いを込めた短冊を書き、校内に設置された竹につるしました。そのたくさんの願いの中から、叶えられそうな願いを学生会が選び、それを叶えるという企



七夕企画

画でした。予算の関係がありましたので些細な事しか出来ませんでしたが、大きい願い事や小さい願い事、またユニークな短冊をたくさん書いて頂き嬉しく思います。

「ハロウィン企

画」は昨年度好評でしたので、今年度も実施しました。先生方にあらかじめ交換券をお渡ししておき、学生は直接教員室や研究室を訪ね「トリック・オア・トリート！」と言います。言われた先生はその券一枚を学生に渡し、学生はその券を3枚集めることで、学生会が用意したお菓子と交換する、という催しです。鶴峰祭直後に行なったため宣伝期間が短くなってしましましたが、何度も券を集めめて持つててくれる学生もいて、皆さんに楽しんで頂けたので良かったです。また、券



を集めるのがきっかけとなり学生と先生の交流の輪が広がった、という声も頂きました。2つの企画はいずれも大盛況でしたので、取り組んで良かったと思います。

その他にも、自転車マナーアップキャンペーン・敷地内のごみ拾い・省エネ活動・交流会・高専大会壮行式の運営・部長会を継続的に行ってています。

自転車マナーアップキャンペーンでは、毎年地域の方々と連携し、あいさつ運動も兼ねて行っています。主に自転車通学生を対象に、「イヤホンを着用しながらの運転」「傘差し運転」などをしないように、自転車のマナー向上を目指しています。敷地内のごみ拾いは、毎週金曜日の昼休みに行ってます。主に菓子類の袋や紙類が落ちていますが、年々少なくなっているように感じます。活動を続けることによって、皆さんの意識の向上へ繋がれば幸いです。

省エネ活動は、主に夏場を中心に行ってきました。放課後に学生会が校内を回り、誰もいない教室で電気・冷房がつけたままになっていないか、などを確認しました。授業中にドアを開けたまま冷房をつけたり、教室に1人しかいないのに教室全体の電気をつけていたり、という事がよく見られました。皆さん節電へのご協力をお願いします。

また、夏休み中には「東北交流会」と「全国交流会」に参加しました。交流会は他高専との数少ない交流の場です。各高専による活発な意見交換・情報交換ができました。それを基に、今後の活動をよりよいものにしていこうと思います。

毎年7月に行なう高専大会壮行式は、学生会が主催しています。出場する選手の決意表明、出場しない学生からの応援、さらに先生方からのユニークな応援も頂き、選手達を激励します。



学生会交流会

また、部長会を年に数回行っています。各部部長からの成績報告や意気込み、さらに部長同士での意見交換などの場を設け、よりよい部活動にするために話し合っています。

さらに、校内体育大会・鶴峰祭にも学生会役員として参加し、実行委員の方々と協力しました。

今年度の活動も残りわずかとなりました。皆さんのご協力があってこそこの学生会です。最後まできっちり頑張りたいと思います。来年度の学生会活動にもご協力お願い致します。

高専祭

毎年10月下旬に行われる高専祭は、一年の中で最も盛り上がるイベントです。今年度は更に、4年に一度の鶴峰祭、そして鶴岡高専創立50周年も重なり、例年よりも華やかかつ賑やかなイベントとなりました。各クラスの模擬店や文化部の展示、打ち上げ花火

クラス企画、女装コンテスト、音楽部によるライブの他、研究室公開も行い、内容盛りだくさんの鶴峰祭となりました。ま



た、企業ブースも設けられ、企業の取り組みを紹介・展示する催しも開かれ、学生にとってまた新たに学ぶことがたくさんありました。鶴峰祭は、学生が主体となって運営を行っています。4月に鶴峰祭実行委員が各クラスより選出され、企画・看板・パンフレットの3つの部署に分かれて活動してきました。どの部署も鶴峰祭間近になると、当日の成功を目指し、夜遅くまで作業を頑張っていました。

鶴峰祭当日は朝早くから集まり、打ち合わせや準備を行いました。学生会と鶴峰祭実行委員、そして先生方が連携し、交通整備やパンフレットの配布、金券の販売などを協力して行いました。

今年度の鶴峰祭は土曜日と日曜日にわたり行われました。二日間ともあいにくの雨模様となりましたが、休日ということもあり、たくさんの方にご来場頂きました。二 わたあめ販売の様子



日間とも様々な企画が設けられ、大いに盛り上がりました。中でも後夜祭で初めて企画された花火の打ち上げは、雨の降る中での打ち上げとなってしまいましたが、たくさんの方に夜

空の大輪を楽しんで頂けたようなので、大変嬉しく思っています。クラス内での団結や文化部の成果をお見せできた良い鶴峰祭だったと思います。

女装コンテストの様子

校内体育大会

毎年5月に行われる校内体育大会は、1~5年生に加え、専攻科生と教職員も参加する大イベントです。特に入学して間もない1年生にとっては、クラスメイトとの仲を深める良いきっかけの一になります。上級生の中にはクラスTシャツを作り、団結力を見せるクラスもありました。



ソフトバレー



ソフトボール



バスケットボール



卓球

鶴岡高専について

機械工学科3年 ハジック

私は機械工学科3年生のムハマド・ハジックです。マレーシアから今年の春に来ました。鶴岡高専に来てからもう7ヵ月ぐらい勉強しています。鶴岡市は本当に平和な町です。景色だけがきれいなのではなく、空気もきれいです。山と田んぼのコンビネーションはとてもきれいな風景です。私はいつも考え事をする時、この景色を見ます。

鶴岡の町は、あまり騒がしさがありません。なので、自転車に乗る時には安心して乗っています。マレーシアでは自転車を乗る習慣がありません。ずっとバイクか自動車を運転します。自転車は少し面倒ですが、楽しいです。ずっと自転車を漕いでいると、汗も出ます。鶴岡の人たちはとても優しいです。自転車に乗っている時やスーパーで食料を買う時にいつも鶴岡の人から挨拶をしてくれます。

鶴岡高専は大きい学校で、色々な施設があります。学校に編入する時、校長先生と面会しました。校長先生はとても優しい人です。

学校もとてもきれいです。ゴミが全然落ちていません。これは日本らしいことだと思います。

日本に来る前に、日本人と友達になることは難しいことだと聞きました。でもそんなことはありませんでした。友達がいっぱいできました。クラスもとても楽しいです。

やっぱり授業は難しいです。それは専門科目は日本語で授業をするからです。しかし、先生や先輩や友達が助けてくれるので、大丈夫だと思います。日本に留学して良かったと思います。

シンガポール、リパブリックポリテクニック短期留学報告

専攻科 物質工学専攻 1年 三浦 美紀

(2013年6月22日~7月20日)

1 留学目的／海外で自分の研究に関係する分野の研究室に所属して、研究室生活・実験体験することにより、自己のスキルアップを図ること。自己の英語力の向上を目指すこと。

2 研修内容／リパブリックポリテクニック(以下RP)では、Willy・TAN研究室のスタッフと一緒に実験やディスカッションを行いました。博士が担当する物理化学の授業に参加して現地の学生と会話することもできました。また、Willy研究室の研究員として実験や学会・セレモニーなどに参加させて頂きました。参加した国際学会では世界中の科学技術を目の当たりにすることができ日本ではなかなかできない経験ができたと思います。

Studying Abroad Experience

留学体験記

移動はバス、MRT(電車)、タクシーとも、全て日本と比べて格安なため、休日はシンガポールのさまざまなところに観光に行くことができました。

4 費用／航空券(鶴岡往復)83,490円、食費 約25,000円、学校からの補助金80,000円、その他(交通費・私物購入費)

5 感想／シンガポールの英語のなまりは自分が授業で聞いている発音とは全然違って独特なため、英語でのコミュニケーションに苦労しました。しかし積極的に質問して教えてもらうように努力すると、耳が慣れてきて自分からも積極的に話しかけられるようになりました。休日は友達と出かけ、ユニバーサルスタジオから歴史まで、シンガポールを観光することができます。

帰国後は自分に自信がつき、もっともっと海外の人とコミュニケーションをとりたいと思うようになりました。RPへの留学はひとりで不安な面もありますが、一ヶ月の時間を充実して過ごすことができました。

さまざまな面でサポートしてくださった鶴岡高専の先生や、RPの教授・スタッフの皆さんに感謝致します。

鶴岡と鶴岡高専について

物質工学科3年 イリヤス

私は今年の4月にマレーシアから鶴岡高専に来ました。来る前には鶴岡市といいのはどんなところなのか全然イメージができませんでした。実際に鶴岡市に来てみたら、鶴岡は田舎だと感じました。山に囲まれて、緑も多くて、すごく良いところだと思いました。勉強に適した環境だと思います。

初めてスーパーなど鶴岡市の様々な所へ行った時、若者よりも年を取った人を多く見かけました。そこで、鶴岡は田舎だと更に強く思いました。しかし、それが

鶴岡の良い所だと思っています。

入学する前は、鶴岡がどんな場所なのか、鶴岡高専はどんな学校なのか、どんな教育をしているのか、全く知りませんでした。しかし不思議と不安はそれほどなく、それどころか少し楽しみにしていました。今、この高専に入学して良かったと思っています。なぜなら、ここに来てからまだ大きく悩んだことがありません。この高専は生活や勉強をするための環境が十分にあると思います。

そして、物質工学科3年のクラスに編入して、私はラッキーだと思いました。それはこのクラスが他の学科より男女比の差が少ないからです。皆優しくて、元気でとてもぎやかなかなクラスです。クラスの皆は私に色々教えてくれました。皆友達になってくれてうれしかったです。ここに来ることが出来て良かったです。

International Students in Tsuruoka NCT

留学生の声



入学する前は、鶴岡がどんな場所なのか、鶴岡高専はどんな学校なのか、どんな教育をしているのか、全く知りませんでした。しかし不思議と不安はそれほどなく、それどころか少し楽しみにしていました。今、この高専に入学して良かったと思っています。なぜなら、ここに来てからまだ大きく悩んだことがありません。この高専は生活や勉強をするための環境が十分にあると思います。

そして、物質工学科3年のクラスに編入して、私はラッキーだと思いました。それはこのクラスが他の学科より男女比の差が少ないからです。皆優しくて、元気でとてもぎやかなかなクラスです。クラスの皆は私に色々教えてくれました。皆友達になってくれてうれしかったです。ここに来ることが出来て良かったです。



Willy博士の講義にて



SEMを使ってのサンプル評価

3 生活・食事／RPスタッフの家にホームステイをさせて頂きました。食事は基本的に外食で、朝食と昼食は学校で食べることが多かったです。多民族国家のためフードコートで様々な国の料理を食べることができ、食事に飽きることはありませんでした。

シンガポール、リパブリックポリテクニック短期留学報告

専攻科 物質工学専攻 1年 三浦 美紀

(2013年6月22日~7月20日)

1 留学目的／海外で自分の研究に関係する分野の研究室に所属して、研究室生活・実験体験することにより、自己のスキルアップを図ること。自己の英語力の向上を目指すこと。

2 研修内容／リパブリックポリテクニック(以下RP)では、Willy・TAN研究室のスタッフと一緒に実験やディスカッションを行いました。博士が担当する物理化学の授業に参加して現地の学生と会話することもできました。また、Willy研究室の研究員として実験や学会・セレモニーなどに参加させて頂きました。参加した国際学会では世界中の科学技術を目の当たりにすることができ日本ではなかなかできない経験ができたと思います。

Studying Abroad Experience

留学体験記

移動はバス、MRT(電車)、タクシーとも、全て日本と比べて格安なため、休日はシンガポールのさまざまなところに観光に行くことができました。

4 費用／航空券(鶴岡往復)83,490円、食費 約25,000円、学校からの補助金80,000円、その他(交通費・私物購入費)

5 感想／シンガポールの英語のなまりは自分が授業で聞いている発音とは全然違って独特なため、英語でのコミュニケーションに苦労しました。しかし積極的に質問して教えてもらうように努力すると、耳が慣れてきて自分からも積極的に話しかけられるようになりました。休日は友達と出かけ、ユニバーサルスタジオから歴史まで、シンガポールを観光することができます。

帰国後は自分に自信がつき、もっともっと海外の人とコミュニケーションをとりたいと思うようになりました。RPへの留学はひとりで不安な面もありますが、一ヶ月の時間を充実して過ごすことができました。

さまざまな面でサポートしてくださった鶴岡高専の先生や、RPの教授・スタッフの皆さんに感謝致します。

海外工場見学に参加して

物質工学科4年 富田 雄希

タイの工場見学旅行を通して学べた事、楽しかった事がたくさんありました。

キングモンクト工科大学、略してKMITLを見学させていただきました。KMITLの目標は、自國に直接貢献できるようなスキルを身につけさせて社会に出す事でした。例えば、化学分野では、バイオディーゼル燃料の研究が盛んに見受けられました。これは、まさに経済成長を迎えている国らしいものだと思いました。また、タイには親日国だけあって日本の企業がたくさん見受けられました。訪問した企業で働いている日本人の方々も仕事がしやすいところだと言っていました。タイではこういった海外企業が多いために英語の教育も充実しているようでした。中には英会話ができないと卒業できない学校などもあるようでした。これから世界に出るために必要な事を見る事ができたと思いました。

新しい考え方を学べた一方で、工場見学では楽しみながらタイの食生活の体験や地元の学生との交流をする事もできました。タイの食事はとても美味しいで、朝はレストランで1時間食べ続けてしまうほどでした。香辛料を使った料理が多く見られました。その中でも一番多かったのがハーブ類でした。特にレモングラスは強烈でトムヤムクンにも入っていました。まだ子供な私の口には合わなかったようでした。

今回の実習の中で一番楽しかったのはKMITLの学生との交流です。以前に鶴岡高専に短期留学した事のある学生さんたち含め、日本語学科の学生さんもバンコク市内案内をしてくれました。ジムトンプソンというタイシルクを作った人の家やバンコクで一番大きいショッピングモールに連れて行ってくれました。

本当に楽しい時間を過ごせました。

タイの工場見学旅行は本当に楽しく、新しい事を学べるとしてもいい機会だと思います。これからも後輩には続けてもらいたいと思いました。



制御情報工学科 4年 廣井 美和

私は、今年の夏のインターンシップを通して”海外で働く企業。”について、とても興味を持っていました。なので、タイでの工場見学で、日本では絶対に聞くことができない”海外で働いている人の声”聞くことができるのもとても楽しみでした。私は、インターンシップで”海外で働く。”ということについて大体理解していたつもりでした。しかし、実際に現地で働いている人の話を聞いてみると、とてもリアルで自分が聞いていたことと反対の話や新鮮な話がありとても刺激的でした。企業説明とともに、アジア全体の企業状況や日本の工場との違いに気づき驚かされたばかりでした。また、積極的に質問ができる、自分にとって、とてもいい経験になりました。

帰り、バンコクの空港の荷物預け待ち時間に、あるおじいさんに出会いました。些細な会話から発展し、その人は、タイで日本の自動車製造に携わった技術者と分かりました。もうすぐ80歳になるが、月に1回、技術を伝えるために海外出張をしている。と、聞きとても驚きました。最後に、そのおじいさんから「自分の好きなことを一生懸命頑張りなさい。」と、素敵な言葉を頂きました。この出来事が私にとって一番、忘れられません。

最初は女の子一人でとても心細かったですが、KMITLの学生レンヌッカーとすぐ友達になることができ、たくさん話したり買い物したりなど、とても楽しく過ごせました。

さらに、これからの自分の就職などについて考えられ、とてもいい

Factory Visit in Overseas

海外の工場見学



経験になりました。これからは、小さなことでも積極的に参加して、自分の目で見て感じ前向きにとらえていきたいです。そして、出会いを大切にしていきたいです。海外の話を聞くよりも、自分の目で見て海外の良さなどを感じてもらいたいので、来年度はもっとたくさんの人にタイに行ってもらいたいです。

こんにちは、国際交流支援室です

国際交流支援室では、以下のような業務を行っています。

1. 学生および教職員の国際交流の推進
2. 海外の大学等の国際交流協定に関すること
3. 学生および教職員の海外の指定校への派遣
4. 学生および教職員の海外の指定校からの受け入れ
5. 外国人留学生の生活指導
6. 留学生の生活指導
7. 外国人研究員の受け入れ
8. その他、国際交流の推進に関すること

現在、鶴岡高専ではフィンランドのトゥルク応用科学大学、ヘルシンキ応用科学大学、フランスのリールA技術短期大学、タイのキングモスクット工科大学、シンガポールの5つのポリテクニック、アメリカのレッドロックス・コミュニティカレッジ、中国の中原工学院、そして2013年にはインドネシアのガジャマダ大学と学術交流に関する覚書を結び、積極的な国際交流活動を行っています。



庄内映画村にて短期留学生たち(6月)

キーワードはグローバル人材 国際的に活躍できる技術者の育成を！



ニーアンポリテク一行来校(9月)

近年の経済活動のグローバル化の中で、今では大企業だけでなく中小企業においても、海外とのかかわりがなければ成り立たない時代になってきています。日本人技術者は、本人の意思とは関係なく、国際的な環境の中で生きていかなくてはなりません。そこで、本校では「国際的に活躍できる技術者の育成」を目指し、「英語を話す高専生」ではなく、「英語で学び、英語で仕事をする高専生」を育成しています。

留学生と学生生活

2013年春には、マレーシアから2名、ラオスから1名が3年生に編入。インドネシア、モンゴルからの上級生に加え、合わ

せて11名の外国人留学生が3年間の学生生活を鶴岡高専で送っています。そして1か月から5ヶ月の滞在をする短期留学生として、フィンランドから3名、フランスから2名、タイから2名が研究をスタートさせました。留学生には一人ずつ、チューターというガイド学生がつき、学業、生活の両面で留学生をサポートします。短期留学生のチューターは英語を使ってのコミュニケーションが主なため、苦労しながらも英語のスキルをアップさせていきます。留学生は寮での暮らしで日本の生活習慣を身に着け、学生と交流していきます。

2013年上半年の出来事を中心に 鶴岡高専の国際交流活動をご紹介します

- ◆3月 国際交流における人的交流体制の整備と強化を図る 春のミーティングを開催(鶴岡市内)
- ◆3月 アメリカ合衆国コロラド及びシンガポールへ、本科生が短期留学(次ページ参照)
- ◆4月 タイのキングモスクット工科大学より、共同研究のためスマート博士が来日。一ヶ月滞在。
- ◆6月 物質工学専攻一年生の三浦美紀さんがシンガポール、リバーブリックポリテクニックに一ヶ月の短期留学(P10 参照)
- ◆7月 制御情報工学科 安田新・准教授がタイのキングモスクット工科大学、シンガポールの5つのポリテクニック、アメリカのレッドロックス・コミュニティカレッジ、中国の中原工学院、そして2013年にはインドネシアのガジャマダ大学と学術交流に関する覚書を結び、積極的な国際交流活動を行っています。

International Exchange

国際 交流

ンクット工科大学内、日本高専機構のリエゾンオフィスに在外研究員として駐在(約70日間)

- ◆7月 出羽庄内国際村主催のコロラドスタディツアーに本科生3名が参加
- ◆3月にシンガポールのテーマセク・ポリテクニックより12名、9月に同国ニーアン・ポリテクニックより20名の学生たちが来校。工場見学や日本文化の体験、また本校での講義を受講し、本校生と交流
- ◆10月 インドネシア・ガジャマダ大学、同大学職業学校との人的交流に関する協定を締結
- ◆11月 本科4年生の希望者が工場見学でタイへ(P11参照)、下旬には インドネシア、ガジャマダ大学にて(10月)ISTS(持続可能な社会構築への貢献のための科学技術に関する国際シンポジウム)で論文が採択された6名の学生と担当教員が香港へ。
- ◆12月 高専機構の「外国人講師による英語授業」プロジェクトで、フランス・ニース大学よりセリン博士が来校。主に専攻科生を対象に講義。



セリン博士の特別講義(12月)

鶴岡高専では、異文化交流、語学研修、専門知識研修を目的として、短期留学を行っています。以下は、アメリカとシンガポールの短期留学に参加した学生の体験談(抜粋)です。

アメリカ レッドロックス・コミュニティカレッジ (2013年3月7日から3月22日) 11名参加



コロラドの野外音楽場の遺跡の前で

- 英語の苦手意識が少くなり、「学ぶこと」が好きになりました(4B 宮田桃香)
- 私のホームステイ先は日本が好きで、家に炊飯器があって、一緒にホームステイした二人でちらし寿司を作ったら、おかわりしてくれてとても嬉しかったです(4I 菅原一畔)
- 将来は英語を駆使して世界で活躍できるエンジニアになりたいです(4E 井上貴明)
- アメリカのお寿司は独自の進化を遂げていて面白かった

シンガポール リバーブリック・ポリテクニック (2013年3月9日から3月18日) 8名参加



RPのキャンパスにて

- 実際のリバーブリックポリテクニック(以下RP)の授業を見学すると、日本の大半の大学のような一方的な授業ではなく、楽しく学んでいる印象が強かったです。日本とは違う文化を知る機会が多くあり、授業時間以外も充実した生活ができました。メニューに野菜が少ないので、女子はビタミン剤があると安心(4B 桑島海鈴)
- 暑い(33℃くらい)。大事なのは文法ではなく、伝えようとする気持ちだと感じました(4B 湊屋貴浩)
- 学校には広い廊下があって、学生たちが自由にダンスや歌などの、さまざまな「ストレス発散」をしているのが、一番印象に残りました。コミュニケーションで大切なのは、1. 相手に興味を持つ 2. 文法などを考えずにどんどんしゃべること!(5B アリフ)
- 初日の授業ではほとんど英語が聞き取れなかったのに、三日目には耳が慣れて理解できるようになったのは、感動でした。学生同士が仲良くなれて、別れ際に涙ぐんでくれたり、泣いたり、そんな友達を作ることができて本当によかったです。自分へのお土産がモノではなく思い出なのは、初めてです(5B 後藤詠美)
- 自分の知らない世界を知ることで、自分の固定概念を変え、視野を広げたいと思いました。毎日毎日楽しい経験をし、積極的になったと思います(4I 三浦加織)
- 授業はアメもOK! ラフに座って話し合いの多い授業スタイルで、社会に出てからも役立つと思いました。海外に行って後悔はない! 本当に楽しい! 青春だー!(4I 廣井美和)
- 海外への関心が高まり、国外のニュースなどに見入ります。英語には苦手意識が強くありましたが、今は本当に英語がうまくなりたいと思います(5B 鈴木りな)



シンガポールの夜景

鶴鳴寮

Dormitory Events 2013

学寮では、寮生会役員・指導寮生といったリーダー寮生が中心となり、その運営を支えています。今回はリーダー寮生が企画・運営する学寮行事をピックアップして紹介します。

寮訓

明
明るく

明るく…思いやりの心を忘れずに、明るく活気ある寮生活を!

厳
厳しく

厳しく…自己に厳しく、そして勉強やクラブをがんばろう!

美
美しく

美しく…居室はきれいに美しく、そして清潔な環境を保とう!

入寮式

新入寮生(1年生・留学生・編入生)を寮生会役員と指導寮生が心を込めて迎えます。荷物の搬入や各種オリエンテーション等、リーダー寮生の活躍が光ります。



春季クリーン作戦

いつもお世話になっている地元町内会(塔和会)との清掃活動です。毎年多くの寮生が参加し、町内の美化推進に協力しています。

町内会の皆さんも「鶴岡高専の寮生は挨拶が良いですね。清掃作業も明るく取り組んでくれてありがたい。」と認めてくださっています。

寮生会総会

寮の年間活動計画、寮生会の予算等について話し合います。寮生会総会は年2回開催されますが、1回目の総会では1年生の自己紹介式も催されます。先輩たちのおせっかいな(?)盛り上げにより、新1年生もそれぞれの個性が光る自己紹介をしてくれます。



2013寮生会役員メンバー

～左から
厚生委員長 佐藤 海 (4E)
文化委員長 大類 賢太 (4B)
体育委員長 丸山 裕大 (4B)
寮生会長 五十嵐和希 (4I)
総務委員長 德岳 勇佑 (4M)
会計委員長 渡部 壮 (4I)



寮生肝試し

学寮では、季節に合わせた小行事も催します。寮生に少しでも楽しんで欲しい、というリーダー寮生の計らいです。H25から新しく企画された『肝試し』。予想以上の参加者があり盛り上りました。



寮生の伝統気質
互助・互譲の精神が
脈々と受け継がれて
います!



寮祭 2013

学寮最大のイベントです。模擬店あり、ステージ企画あり!寮生の結束の強さが大いに発揮される行事!ピンゴ大会の景品ゲットにかける寮生の意気込みは並々ならぬものがあります。人気景品はなぜか消臭スプレー?…今年度も大盛況でした。

寮生芋煮会

これもH25の新設行事。休日に行われましたが、残寮していた寮生が大勢参加しました。芋煮の調理はリーダー寮生が担当。庄内風と内陸風の食べ比べでしたが、甲乙つけがたい美味しい味でした。



寮生活では、集団生活におけるマナー・ルールなど、社会性を高めるうえで大切なことを学ぶことができます。普段の寮生活で心がけている『協力・協調』や『他に対する配慮』、それが各種行事で活きてきます。みんながそれぞれの分担に責任を持って取り組んでくれます。これも寮の良さ、本当に寮の仲間は心強いと感じます。仲間との絆は大きな財産です。寮生会長:五十嵐和希(4I)

50th Anniversary Events:Corporate Technology Exhibition/Open Lab/Symposium Regional Partnership,Citizen Salons, Delivery Lectures, Issue of "Research Seed", Participation in Local Industrial Exhibitions

創立50周年記念事業を実施

創立50周年記念事業の一環として、10月26日に企業技術展、シンポジウム、オープンラボを開催致しました。

■地域の企業技術展

「つながる・ひろがるテクノロジーコミュニティ」

本校7号館にて、地域の企業技術展を開催致しました。20団体に出演頂き、学生、教職員、一般の方、合わせて約400名の方にご来場頂きました。

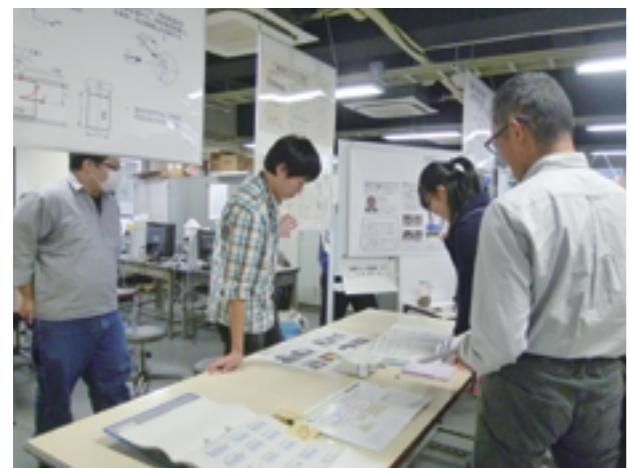
地元企業の方々の技術・製品について、直接お話を聞くことで、学生にとって技術を学ぶことができたと共に、一般の方にも地元企業について知って頂く良い機会となりました。



企業技術展の様子

■鶴岡高専オープンラボ

オープンラボは、企業技術者を本校の研究室に招き、最新研究情報の紹介や設備・装備の体験使用を行いつつ意見交換する企画で、共同研究・受託研究・技術相談等の促進も視野に入っています。今年は創立50周年記念事業の一環として開催し、企業の方だけではなく、一般の方も自由に研究室を見学できるようにし、「研究」をより身近なものに感じて頂けたオープンラボとなりました。



オープンラボ(機械工学科)の様子

■鶴岡高専・地域連携シンポジウム

本校の合同講義室にて、「鶴岡高専・地域連携シンポジウム」を開催し、4名の講師の方にご講演頂きました。



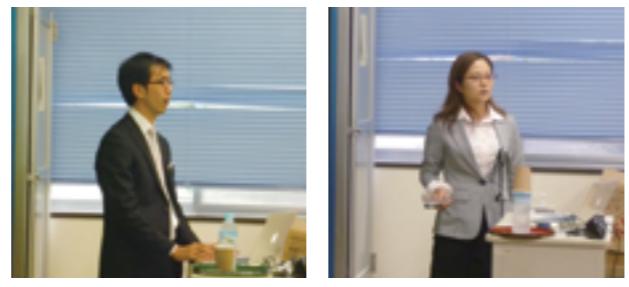
テーマⅠの「ナノ材料科学技術の産業応用」では、NIMSナノ材料科学環境拠点 拠点長の魚崎浩平氏が『ナノ材料科学による環境・エネルギー問題へのアプローチー物質・材料研究機構ナノ材料科学環境拠点の取り組みを中心に』と題して基調講演を行い、ナノ材料科学環境拠点 計測分野の材料界面動的観察グループリーダー 三石和貴氏には『電子顕微鏡の様々な手法と、2次電池材料への応用』についてご講演頂きました。

Technology Center

鶴岡高専・地域共同テクノセンターの活動記録



講師の魚崎氏と三石氏



講師の及川氏と斎藤准教授

テーマⅡの「地元食材からの機能食品開発」では、山形大学農学部准教授の及川彰氏より『農産物と食品のメタボローム解析』についてご講演頂き、本校からは、物質工学科の斎藤菜摘准教授より『微生物の代謝を利用した庄内ものづくりの展望』と題し、ご講演頂きました。

延べ60名の方々から聴講して頂き、講演後にはご参加頂いた方から多くの質疑応答があり、活発に意見交換されました。

市民サロンを実施

市民サロンは、鶴岡高専技術振興会との共催により本校教員と地域研究機関研究者・技術者による専門分野の最新情報を市民の方に解りやすく解説するもので、毎年3回行っています。今年は、7月『健康・体力づくりのスポーツ科学』、8月『メタボリック症候群が招く病気とは?』、9月『省エネルギーが救う地球環境』をテーマに、鶴岡高専教員1名と山形県内の関係者1名がそれぞれ講演し、延べ150名の市民の方々から聴講して頂きました。



市民サロン第1講(7月)の様子

出前講座を実施

出前講座とは、企業の要望に応え、鶴岡高専の教員が依頼元



出前講座の様子

鶴岡高専シーズ集(研究者紹介)の発行

シーズ集とは、本校で教育研究に活躍する全教員、技術職員の教育研究分野や略歴などを簡潔に紹介する冊子です。学外の方々へ本校教職員の技術シーズを広く紹介する為に毎年更新発行しています(鶴岡高専ホームページにもPDF掲載)。地域のニーズと高専シーズのマッチングを担う高専所属研究者・技術者のPR誌です。



2013年度シーズ集(冊子)

さかた産業フェア2013への出展

10月5日・6日の2日間、「さかた産業フェア2013」が酒田市体育館で開催されました。56団体が出展し、来場者数は2日間合わせて約6,400名と大盛況に終わりました。

本校からは、上條研究室(総合)と神田研究室(電気)が出展し、子供だけでなく多くの大人の方にも体験して頂き、たくさん質問しながら楽しんで頂きました。



大盛況のさかた産業フェア

つるおか大産業まつり2013への出展

10月19日・20日の2日間にわたり開催された「つるおか大産業まつり2013」。鶴岡市小真木原公園(朝暁武道館)で行われ、本校が出演した「ものづくり(工場)展示・体験エリア」では、44団体が出演しました。



つるおか大産業まつり(写真は朝暁武道館内)

本校からは小野寺研究室(機械)、宍戸研究室(情報)、佐藤司研究室(物質)、江口研究室(電気)、教育研究技術支援センターの5研究室が出演。親子連れや子供たちを中心に大人気の企画となりました。

つるおか大産業まつりには約8,000名もの地域の方々が来場されました。この場で鶴岡高専を大いにアピールすることができました。

機械工学科



- 指導教員:本橋 元(横浜市出身)
- 5年生:東 剛仁・阿部将平・伊藤祐太・佐藤 玄・山川雄也
- 専攻科生:阿部健太
- 主な研究テーマ:(1)低落差用マイクロ水力に関する研究 (2)太陽光発電システムの運用に関する研究 (3)リボン型風車の出力特性に関する研究 (4)自然エネルギーを利用した排水ポンプに関する研究
- 研究室の特徴:「いろんなモノがあふれています」(伊藤談)
- 教員から一言:「雨ニモ負ケズ風ニモ負ケズ雪ニモ夏ノ暑サニモ負ケズに頑張っています」

新エネルギー研究室



- 指導教員:田中 浩(愛知県出身)
- 5年生:石井裕也・薄衣撰平・佐藤兼吾・田宮 駿・土田純平
- 専攻科生:1年 武田将人・2年齋藤 翼
- 主な研究テーマ:(1)切削工具の長寿命化 (2)エッチング加工・研磨加工の高速、高精度化 (3)デスクトップ型加工機の製作と性能向上 (4)マイクロメイズロボットによる協働作業実現
- 研究室の特徴:「独立自尊 & 臨機応変」
- 教員から一言:「自ら気づき、築く、落ち着く人に成れ!」

機械工作研究室

- 指導教員:末永文厚(静岡県生まれ、愛知県と北海道で成長)
- 5年生:国分和明・佐藤皓一・佐藤颯人・宮守晃平
- 主な研究テーマ:(1)木質ペレットを燃焼する熱交換器の性能研究 (2)鶴岡高専のエネルギー利用に関する研究 (3)産業用エネルギー機器の将来動向に関する研究
- 研究室の特徴:「のんびりマイペースで、ぼちぼちやってます」(5年生談)
- 教員から一言:「人生至る所に青山あり、持ち場・立場で誠実に生きる!!」



熱流体工学研究室



- 指導教員:當摩栄路(北海道苫小牧市出身)APECエンジニア(Mechanical)
- 本科5年生:小野塚琢磨・鈴木 舜
- 卒研の就職内定先:(株)IHI・本田技研工業(株)
- 主な研究テーマ:(1)スタバアルト装置によるタグチ・メソッド実践に関する研究 (2)風力発電システムのMT法による診断・予測解析に関する研究 (3)成形加工における樹脂ブーリ部品強度の最適化に関する研究(樹脂部品加工メーカーとの共同開発)
- 研究室の特徴:「試す人になれ 安住こそ危機」(本田宗一郎の言葉)
- 教員からの一言:★モノづくりの基本:『三現主義』の重要性を認識 「常に現場、常にモノを把握、困ったら即やってみる」

品質工学研究室

- 指導教員:竹村 学(村山市出身)
- 5年生:ムハマド・アラビ・加藤直樹・白幡 翼・鈴木健広・高橋 涼・長岡 功
- 主な研究テーマ:(1)時間割編成支援システムの開発 (2)学寮宿直編成支援システムの開発 (3)設計図支援システムの開発
- 研究室の特徴:「機械工学科なのにコンピュータしか有りません」
- 教員から一言:「塵も積もれば山となる」



数値解析研究室



- 指導教員:五十嵐幸徳(旧櫛引町出身)
- 5年生:後藤優太・角田力哉・佐藤成平・高橋幸佑
- 専攻科生:伊藤猛晋
- 主な研究テーマ:(1)PECSにおけるSHSに関する研究 (2)MA-SHS-PECS法に関する研究 (3)MAにおけるSHS反応に関する研究 (4)PECS法によるアルミニウム焼結に関する研究
- 研究室の特徴:「精神的に強くなります」
- 教員から一言:「努力は裏切らない」

機械材料研究室

Hello from Laboratory ~Department of Mechanical Engineering~
Introducing students, staff, research themes, feature of each lab.

- 指導教員:増山知也(栃木県宇都宮市出身)
- 5年生:菅原裕貴・高橋 涼
- 専攻科生:足達龍輝・遠田 涼・狩野博司
- 主な研究テーマ:(1)画像相関法による変形計測 (2)水田用除草攪拌機の開発 (3)歯車の強度評価
- 研究室の特徴:「Nothing is more important than time」(専攻科3人衆談)
- 教員から一言:「読書量という貯蓄をしよう」

設計工学研究室



- 指導教員:佐々木裕之
- 5年生:井澤孝允・河合裕未・桐澤光基・佐藤拓也
- 専攻科生:秋山大樹
- 主な研究テーマ:(1)偏角をもつクラウン減速機の製作 (2)カップリングの角度伝達誤差測定 (3)歯車減速機の歯に加わる力の推測
- 教員から一言:「策士策に溺れるとはよくいったもんだ」

ロボメカ研究室(1)

- 指導教員:矢吹益久(福島県いわき市出身)
- 5年生:阿部 智・タウフィック・高橋拓也・長谷川真帆
- 専攻科生:遠藤才貴
- 主な研究テーマ:(1)流量センサのデータ送信 (2)真空装置を用いたクライミングロボット
- 研究室の特徴:「日進月歩」by Taufik
- 教員から一言:「今後の活躍を期待しております」

熱流体工学研究室



- 指導教員:小野寺良二(鶴岡市出身)
- 5年生:アイディル・後藤憲一・森 隆裕・若木辰心
- 主な研究テーマ:(1)ポテンシャル法を用いた簡易回避アルゴリズムの検討 (2)スパイクジャンプの助走の効果 (3)車椅子操作力の軽減手法の検討 (4)療育支援椅子の製作・評価
- 研究室の特徴:「朝日村から来ました。」(若木談)
- 教員から一言:「良い意味での適当といいかけん」

ロボメカ研究室(2)

- 指導教員:今野健一(宮城県気仙沼市出身)
- 5年生:清水悠希・庄司慶太・滝口琢視
- 主な研究テーマ:(1)静電誘導を利用した細胞の力学計測原理の構築 (2)3軸マイクロ動作原理の応用 (3)培養細胞維持装置の開発 (4)環境力学刺激と力学的細胞応答の因果性に関する研究
- 研究室の特徴:「無垢の庄司!憤怒の清水!強欲の滝口!そして傲慢の今野!」(5年生談)
- 教員から二言:「常識に惑わされると真理がみえなくなっちゃうわけよ。オレたちは世界を常識でゆがめてみてんんだよ」

バイオメカニクス研究室



電気電子工学科



- 指導教員: 佐藤秀昭(山形県長井市出身)
- 5年生: 泉 拓磨・小川慶介・齋藤真矢・本間和樹
- 主な研究テーマ:(1)ビニルテープの長時間電圧印加による絶縁耐力の研究
(2)R・G・B-LEDの加法混色による高演色性白色光の研究
(3)避雷針の誘雷効果の研究
(4)有機EL照明の混色比がコマツナの生長に及ぼす影響
- 卒研生あいうえお作文:「たくましく、けだかく、しにものぐるいで、かえろうよ」
(泉たくま、小川けいすけ、齋藤しんや、本間かずき)

佐藤秀昭研究室

Hello from Laboratory ~Department of Electrical and Electronic Engineering~
Introducing students, staff, research themes, feature of each lab.



- 指導教員: 保科紳一郎(新潟県新潟市出身)
- 5年生: 安食朋寛・河野利信・佐藤 衛・佐藤玲紀
- 専攻科生: 齋藤健人・五十嵐拓
- 主な研究テーマ:(1)マイコン応用機器の開発
(2)高周波回路の研究開発
(3)電磁界解析技術の研究開発
- 研究室の特徴:「先生いつもお世話になっています。」(河野談)
- 教員から一言:「いつもお世話しています。」

保科研究室

- 指導教員: 江口宇三郎(山形県山形市出身)
- 5年生: 笹原瑠偉・佐竹祐介・須田庸佑・福井 隼
- 主な研究テーマ:(1)カーボンナノ素材の物理的特性の研究
(2)津波観測装置の作製
(3)木質廃材を用いた金属炭化物の作製と物性評価
- 研究室の特徴:「江口先生と愉快な仲間たち」
- 教員から一言:「失敗を恐れず、チャレンジしよう！」

江口研究室



- 指導教員: 武市義弘(徳島県徳島市出身)
- 5年生: 加賀谷啓太郎・小松大悟・樋口哲也・三浦飛鳥
- 専攻科生: 結城亮平・川上太彰
- 主な研究テーマ:(1)独立成分分析を用いた信号処理の応用
(2)画像処理
(3)無線通信
- 研究室の特徴:「僕と契約して卒研生になってよ！(樋口談)」
- 教員から一言:「計画性を持って自ら行動に責任を持つ」

武市研究室



- 指導教員: 吉木宏之(大阪府豊中市出身)
- 5年生: 五十嵐侑・板垣 伸・クタイバ・佐藤壮晃
- 主な研究テーマ:(1)大気圧μプラズマを用いた材料加工・薄膜作製の研究
(2)マイクロ流路チップの高機能化の研究
(3)大気圧プラズマとマイクロバブル技術の融合研究
- 研究室の特徴:「ちょっと厳しめの研究室です(卒研生より)」
- 教員から一言:『卒業研究では皆さんの行動力、弛まぬ努力、発想力が試されます。プラズマの可能性を探求しよう!!』

吉木研究室(プラズマ応用研究室)

- 指導教員: 内山 潔(埼玉県寄居町出身)
- 5年生: 斎藤貴聰・佐藤智也・佐藤諒介・高梨翔大
- 専攻科生: 石塚侑己・稻毛一昭
- 主な研究テーマ: 酸化物薄膜の電気・電子応用技術の開発 (1)中温域動作固体酸化物形燃料電池の開発 (2)新規酸化物半導体の開発とそのデバイス応用です。
- 研究室の特徴:「Time is Money」(5年生談)
- 教員から一言:「卒業研究・専攻科研究を通じて、基本的な研究テクニックを身につけてください。」

内山研究室



- 指導教員: 宝賀 剛(北海道旭川市出身)
- 5年生: 門脇圭佑・菅野景斗・丹 佑二・本間徹弥
- 専攻科生: 阿部矩明・西谷雄三
- 主な研究テーマ:(1)機能性薄膜の電気・磁気特性に関する研究
(2)磁界による鳥害防止の研究
(3)マイクロバブルの電気特性に関する研究
(4)超電導材料に関する研究
- 研究室の特徴:「マイベースで仕事に取り組む研究室です」
- 教員から一言:「薄膜材料、鳥害防止、マイクロバブルなど、いろいろなテーマに取り組んでいます」

宝賀研究室



- 指導教員: 神田和也(新潟県新潟市出身)
- 5年生: 阿部舞斗・岡部哲也・小林侑太・中西 涼
- 専攻科生: 矢口翔一・佐藤瑞起
- 主な研究テーマ:(1)農業ICT用環境モニタリング (2)食品検査装置の検討
(3)独立分散電源、など多岐にわたります。
- 研究室の特徴:「学内で最も居心地の良い場所?」をコンセプトに全員またりと学生生活を送っています。
- 教員から一言:「伝統的に優秀な専攻科生は面倒見がよく、本科生の卒業研究は専攻科生の支援得て、毎年、大きな成果を得ています。」

神田研究室

- 指導教員: 佐藤 淳(山形県鶴岡市出身)
- 5年生: 佐藤航也・佐藤裕麻・舟山厚志・三浦綜太
- 専攻科生: 山内 涼・昆 憲英
- 主な研究テーマ: 組込みシステムに関する研究
- 研究室の特徴:「ハッハッハ。」
- 教員から一言:「本研究室では、電気電子工学科で学んだ知識とICTを組み合わせてものづくりの基盤となるスキルを身につけるための教育研究活動を行っています。」

佐藤淳研究室



- 指導教員: 森谷克彦(新潟県新潟市出身)
- 5年生: 阿部孝史・五十嵐滉亮・小野拓史・小野稜平・下妻 輝・中村大輔
- 専攻科生: 五十嵐凌・大澤和嵩
- 主な研究テーマ:(1)非真空プロセスによる環境調和型半導体の作製とその太陽電池への応用
(2)蒸着法による薄膜の作製と評価
- 研究室の特徴:「薄膜は男の口マン(薄膜班談)」
- 教員から一言:「本研究室では環境に優しい太陽電池を低成本かつ簡単に作製する方法を日々研究しております」

森谷研究室



- 鈴木大介: 各学年の弱電系の実験・実習を担当しています。
剣道部のコーチもしております。
- 一条洋和: 主に強電系の実験・実習を担当しています。
電気にに関する資格教育にも携わっています。
- 遠藤健太郎: 主に弱電系に関する実験・実習を担当。新米なので日々精進していきます。
- 石田克敏: 主に強電系に関する実験・実習を担当。
学生から秘密裏にエネルギーを頂戴しています。

電気電子工学科 担当技術職員

制御情報工学科



- 指導教員:柳本憲作(専門分野:音響工学、制御工学)
- 専攻科生:小林亮介
- 5年生:阿部勇次・佐藤史隆・菅原瑞生
- 主な研究テーマ:(1)人のハンドリングを模した揺動装置によるファンの音響解析
(2)長寿命ファンの音質評価
(3)Phonicsによる筐体内の熱流動解析
- 卒業生による天声:「研究室が新しくなって研究が捲ります!」(勇次談)
「研究室が広くなってとても快適です」(史隆談)
「51はみんないいヤツでした!ありがとう。」(瑞生談)

柳本研究室



- 指導教員:宍戸道明 ●技術職員:木村英人
- 専攻科生:後藤萌
- 5年生:佐藤貴洋・佐藤由弥・須貝優磨・渡部真
- 主な研究:(1)天然由来廃棄物の工業材料化・再資源化
(2)非侵襲によるバイタルセンシングと福祉・ヘルスケアへの応用
(3)メカトロ技術の応用(アミューズメント機器や福祉機器の開発)
- 研究室の特徴:①24時間戦う研究室 ②技術者である前に人として成長できる研究室 ③縦の繋がりが強い研究室(学生談)
- 教員から一言:「できない説明より、やる方法を考えろ」「本気で遊べ!」

福祉・医用デバイス研究室

- 指導教員:吉住圭市(山形県鶴岡市出身)
- 5年生:阿達拓也・市川喬裕・小野歩・工藤靖宗・田村宏恵
- 主な研究テーマ:(1)AndroidによるMindstormsの遠隔操作 (2)児童向けTablet PC用英語教材ソフトの開発 (3)Webアプリケーションの開発(就職活動支援システム学生用／教員用) (4)KINECTによる入退室管理システムの開発
- 卒研生談:吉住研を四字熟語で表すと…「悪戦苦闘」「日進月歩」「悠悠閑閑」「切磋琢磨」「日々精進」



吉住研究室



- 指導教員:渡部誠二(山形県酒田市出身)
- 5年生:加藤凱生・佐藤柊・佐藤充・山本航・渡部立
- 専攻科生:成澤浩太
- 研究テーマ:(1)Bluetoothデバイスによるマルチ動作の実現
(2)LabVIEWを用いたTSP法によるインパルス応答の計測システムの実現
(3)パーティクルフィルタを用いた2色の移動物体の同時検出と追跡
(4)食品加工生産物の生産管理システムの構築
(5)ゴルフ打球音の音響解析

渡部研究室



- 指導教員:三村泰成(大阪府豊中市出身)
- 5年生:安達正人・齋藤雅直・平瀬数馬・藤澤哲平・水口映花
- 専攻科生:信夫直大・伊藤貴史
- 主なテーマ:(1)計算力学 (2)最適設計 (3)バイオメカニクス
(4)人工環境学など
- 研究室の特徴:「ここは三村研究室。勤勉さと程良いゆとりを持った学生たちが、日々研究に精を出しています。」
- 教員から一言:「研究を通じて、自ら考え、自ら行動し、自ら責任を持てるような人間形成に役立てばと思っています。」

三村研究室

- 指導教員:佐藤義重(愛知県名古屋市出身)
- 5年生:五十嵐健太・五十嵐大賀・寒河江剛志・菅原諒・鈴木康哲
- 主な研究テーマ:(1)インテリジェント・ロバスト制御に関する研究
(2)インテリジェント・インビーダンス制御に関する研究
(3)ロボットの知能化に関する研究
- 研究室の特徴:「知能制御の分野で世界レベルの研究を行い、産業界で役に立つ技術を発信」
- 教員から一言:「研究の楽しさを知り、世界に通用する技術者を育てたい!!」



知能制御システム研究室

- 指導教員:安田新(秋田県秋田市出身)・宮崎孝雄(千葉県市原市出身)
- 5年生:小野寺百祐・小島圭史
- 専攻科生:大瀧陽輔・大友涼平
- 留学生:Joni Verner Pohtala
- 主な研究テーマ:(1)応用物理計測 (2)赤外線光通信の研究
- 研究室の特徴:「光や音など物理現象の応用研究をします。」
- 教員から一言:「どんな難しいことも単純なことの積み重ねと組み合わせ。何事も急がば回れで取り組みましょう。」

安田・宮崎研究室



- 指導教員:安齋弘樹博士(工学)
- 5年生:新館佑太・菅原綾望・ビャムバ・三浦収・森慎太郎・横田航
- 専攻科生:2年:安達友紀・1年:伊藤凌介
- 主な研究テーマ:(1)マイクロ波加熱方式バイオマスプラントおよび発電について
(2)マイクロ波加熱装置 (3)ITS用透明電波吸収体 (4)画像処理による雷観測
(5)人力アシスト電動ビークル
- 研究室の特徴:「EMC(電磁環境)問題を中心に研究を行っています」
- 教員から一言:「量産化がスタートし、来年度の展開が楽しみ」

安齋研究室



- 指導教員:金帝演(韓国)
- 5年生:石黒康平・佐藤尚希
- 専攻科生:遠藤崇江
- 主な研究テーマ:移動体(自動車および電動車いす)の安全運転支援およびナビゲーションに関する研究
- 研究室の特徴:ゼミを通じて学生同士の活発な意見交換
- 教員からの一言:人生楽しく生きるためにどうすれば良いのか常に考える。

金研究室

物質工学科



- 指導教員:清野恵一(山形県南陽市出身)
- 技術職員:米澤文吾(岩手県紫波郡紫波町出身)
- 5年生:小鷹樹・古野豪人・御船俊弥
- 専攻科生:石川大樹・小関恭史・鈴木鍊
- 主な研究テーマ:(1)MC法で調整した酸化チタン光触媒によるVOCの分解
(2)アスピリン原薬の回分冷却晶析
- 研究室の特徴:「一味違うメカノケミストリー」(御船談)
- 教員から一言:「化け物と言われた粉体。化けるメカニズムを追求し、うまく化かしましょう」

化学工学研究室

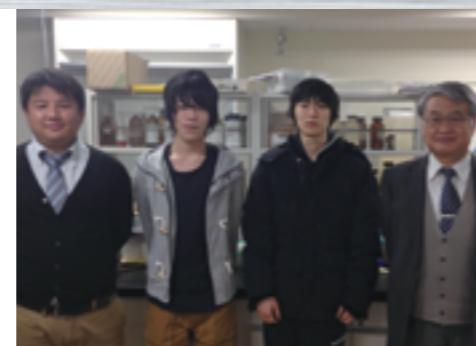


- 指導教員:佐藤司(山形県酒田市出身)
- 5年生:遠藤航太・工藤弘晶・後藤詠美・佐藤大人
- 専攻科生:鈴木太郎・閔亜美
- 主な研究テーマ:漂着ゴミや廃食用油の再資源化、マイクロバブル
- 研究室の特徴:地域貢献を目的とした研究を行う。ボランティア活動に積極参加。
- 教員から一言:学校で学んだことを社会の為に大いに活用してください。
- 学生から一言:ボランティア要員募集中

高分子材料研究室

- 指導教員:伊藤滋啓(福岡県福岡市出身)
- 嘱託教授:粟野幸雄(山形県山形市出身)
- 5年生:乙坂樹輝・平泉功太
- 主な研究テーマ:固体イオン伝導体の合成と電気的特性
- 研究室の特徴:まずは学会参加、発表を目標とする!!
- 教員から一言:まだ一年目で慣れないこともたくさんありますが、学生と一緒にになって研究も研究室も作り上げていきたいです。
- 学生から一言:「楽しくセラミックスを作っています。」「卒研生一期生として大変のこともあるが充実した時間を過ごしている。」

無機化学研究室



- 指導教員:阿部達雄(神奈川県横浜市出身)
- 技術職員:伊藤真子(山形県酒田市出身)
- 5年生:諫訪瑞季・脇元風花
- 主な研究テーマ:(1)オオミジンコによる無機化学物質の有害性評価
(2)無機イオン交換体によるセシウムの選択的分離
- 研究室の特徴:やるときはやる!
- 教員から一言:いま無駄だと思うことでも、与えられた課題にきちんと取り組みましょう。
- 学生から一言:とってもアットホームな研究室です♪

環境生態研究室



- 指導教員:飯島政雄(山形県酒田市出身)
- 指導教員:斎藤菜摘(群馬県みどり市出身)
- 5年生:五十嵐奈美・石塚安沙子・薄井亮磨・早坂聰一郎・堀拓未
- 専攻科生:佐藤優樹
- 主な研究テーマ:(1)絹タンパク質と合成ポリマーの複合化
(2)シクロデキストリンの化学修飾による高機能化
- 学生から一言:The more I learn, the more I realize I don't know.
The more I realize I don't know, the more I want to learn.
研究していると、学ぶべきことが山積みです。
- 教員から一言:日々是學習!?

生物工学研究室



- 指導教員:南淳(北海道札幌市出身)
- 5年生:今井航大・國井竜太・黒沼耀介・齋藤まり奈・鈴木りな・伊藤佐久磨・上野雄平・北村貴之・石塚まりむ
- 専攻科生:三浦光司
- 主な研究テーマ:道管細胞分化におけるメタカスパーゼの役割、お茶カテキンがマウス血糖値と体内時計に与える影響
- 研究室の特徴:マウス、ブドウ、コウボウなど「いきもの」を研究しています。
- 学生から一言:いつもココアの香りの漂う研究室です(培地の臭いだけ)。

植物細胞工学研究室、食品科学研究室



Hello from Laboratory ~Department of Chemical and Biological Engineering~
Introducing students, staff, research themes, feature of each lab.



- 指導教員:佐藤司(山形県酒田市出身)
- 5年生:遠藤航太・工藤弘晶・後藤詠美・佐藤大人
- 専攻科生:鈴木太郎・閔亜美
- 主な研究テーマ:漂着ゴミや廃食用油の再資源化、マイクロバブル
- 研究室の特徴:地域貢献を目的とした研究を行う。ボランティア活動に積極参加。
- 教員から一言:学校で学んだことを社会の為に大いに活用してください。
- 学生から一言:ボランティア要員募集中

高分子材料研究室



- 指導教員:瀬川透(青森県むつ市出身)
- 技術職員:矢作友弘(山形県尾花沢市出身)
- 5年生:上野啄臣・柿崎友昭・金子福明・関本早希・成田智洋
- 専攻科生:石塚啓介・中村公俊
- 主な研究テーマ:2,3-ジアリール-6,6-ジシアノフルベンの合成と光反応
- 研究室の特徴(方針・イベントなど):「寡黙・勤勉・オッペケペー」
- 教員から一言:「黙ってやれ!」
- 学生から一言(1~2名):「弁明をさせていただきます…」

合成有機研究室



- 指導教員:戸嶋茂郎(秋田県湯沢市(旧雄勝町)出身)
- 5年生:鈴木沙英・高橋重光・田苗咲由希
- 専攻科生:佐藤祐歩・渡部剛
- 主な研究テーマ:(1)電析法による金属ガラス合金膜の作製
(2)各種金属材料の腐食反応機構解析および防食法の検討
- 研究室の特徴:「測定機器を横目に菓子を食べるか、めっきを横目に餃子を食べるか。自由でのびのびと研究できる素敵なところです。(沙英談)」
- 学生から一言:「暗黙の了解に逆らわずに頑張っていきましょう。(重光談)」&「塩橋作製技術修得済。(田苗談)」

材料化学研究室



- 指導教員:佐藤貴哉(愛知県名古屋市出身)
- 5年生:アリフ・鈴木綾乃 ●専攻科生:阿部早紀・斎藤駿・三浦美紀
- 技術職員:丸金祥子・天野香
- 主な研究テーマ:(1)電気二重層キャパシタ用新規電解質塩の合成と評価 (2)イオン液体DNゲルによる低摩擦の実現 (3)リチウムイオン二次電池用セバレータの開発と評価
- 教員から一言:「私の話を聞いてくれるのは庭のハナミズキだけです」
- 指導教員:森永隆志(兵庫県尼崎市出身)
- 5年生:佐藤和志・中村翼
- 専攻科生:長谷川正太・丹野駿 ●技術職員:本間彩夏
- 主な研究テーマ:(1)微粒子積層型燃料電池用電解質の開発 (2)微粒子積層型リチウムイオン二次電池用電解質の構造最適化 (3)多角度光錯乱法による絶対分子量の測定
- 教員から一言:「水と油は混ざらないけど、混ざったマヨネーズはおいしぃんだぜ!」
- 研究室の特徴:「これ誰のおみやげ? いただきます!」
「人口密度が高い!さいこー」(和志・アリフ談)

有機機能材料研究室 兼 無機機能材料研究室



- 指導教員:上條利夫(山梨県甲府市出身)
- 特任助教:荒船博之(東京都港区出身)
- 5年生:岡田亮二・石塚卓也
- 主な研究テーマ:トライボロジー
- 研究室の特徴:研究一筋!!
- 教員から一言:祝一期生
- 学生から一言:教員学生一丸となって研究を進めています

総合化学研究室

高専の高度化について

専攻科長 飯島政雄

高専制度ができる50年になる。この間、社会情勢は大きく変わった。特にこの10年間の変化は激しい。全国の国立高専がひとつの高専機構として法人化され、専攻科もできた。外部機関による審査や評価も行われるようになった。高専の使命は“実践的な技術者を育成し社会に貢献する”ことである。高専に対する社会の要求度は依然として高いものであるが、安穏としてはいられない。少子高齢化とグローバル化が進むことは明らかである。社会情勢の変化に対応していくのではなく、その前に変わっていかないと高専も立ち行かなくなる。そのための方策が「高専の高度化」である。高専が取り組んでいる高度化の概要と本校の現況について述べたい。

学科改組・カリキュラム改善:全科一括りで入試を行い、1、2年は混合学級としてカリキュラムを共通化する。その後に各専門学科やコースに分かれるとある。また、専攻科2年間のカリキュラムを本科5年からの連続とした7年一貫教育を目指すものもある。これらの改組はいくつかの高専で行われている。同時に、カリキュラムの標準化も進んでいる。高専機構では“モデルコアカリキュラム”と称する標準のカリキュラム案を作成している。それは、コアとなる学生の到達すべき最低限の能力水準・修得内容と、モデルになるような独自性を備えたカリキュラムのことである。この標準のカリキュラムによって卒業生の質(学習成果)を保証し、併せて各高専の特色ある教育を推進しようとしている。現在、全国の高専がその実施に向けて動き

[専攻科]
Advanced courses



中国でのインターンシップにて

科は時間割を柔軟に組むことができるため、留学期間を6ヶ月程度までに延長して、高専としての特色を出そうとしている。本校の実施状況については、他のページに記載されているので参照願いたい。

地域連携の強化:先端的研究と企業での生産技術を結びつけることも高専の役割のひとつである。地域企業に対して卒業研究テーマを募り、技術相談の窓口を開設して企業からの技術的問題に応えている。そのためには、企業ニーズに充分応えられる研究の質が必要である。先端機器の導入による研究の高度化を推進し、その質向上に努めている。同時に、企業と協働して学生の就業教育を行うCO-OP(コーラブル)教育も積極的に行われている。

エンジニアリングデザイン教育:つくりたいモノをただ設計するだけでなく、経済的、環境的、社会的なことまで考えてモノをつくることが“エンジニアリングデザイン”である。実際の開発・製造

高度化の取組み

Advanced Courses

始めている。

専攻科の拡充:専攻科を修了すれば、大学工学部と同じ学士(工学)を取得できる。そのためには、学生個人が大学評価・学位授与機構に申請し、小論文試験に合格しなければならない。しかし、早ければ来年度にも高専単独で学士を出せる公算が大きい。これは高専全ての悲願であり、これまでの専攻科教育の実績が認められたことを示すものである。本校では専攻科のコース制を検討している。これまでの専攻科2専攻(機械電気システム工学、物質工学)をひとつの専攻にし、その中で各専門のコースに分かれるのである。幅広い分野に対応できる開発型の技術者育成を目的として、現在その素案作りを行っている。

インターンシップの拡大:インターンシップは企業での就業体験である。本科4年と専攻科1年の夏休みに、2週間程度のインターンシップを実施している。インターンシップは、実社会の中で実践的な技術を学ぶ絶好の機会である。高専教育の目玉として、設立当初からインターンシップを実施してきた。高専機構では全国高専から数十名を選抜し、海外インターンシップのプロジェクトを始めている。今年度、本校の専攻科生がこれに選抜され、中国深センの日本企業に派遣された。インターンシップの長期化(3~6ヶ月程度)や海外展開が推進され、拡大が図られている。本校でも長期のインターンシップを推奨しているが、受け入れ先の確保やカリキュラムの編成が課題になっている。

国際交流の推進:産業構造や技術のグローバル化に伴い、これに対応できる国際感覚と語学力、コミュニケーション能力が卒業生に要求されるようになった。そのためには、まず外国に行くことである。各高専や高専機構は多くの海外教育機関と協定を結び、国際交流を推進している。海外短期留学(1~3ヶ月間)は、単位化している高専が多い。専攻

に即した教育方法として、工学教育では特に重要視されている。エンジニアリングデザイン教育は、課題発見-解決型の創造系科目として全高専のカリキュラムに組み込まれている。教科書などではなく、手探りの状態で各高専が独自に取り組んでいる。本校では、専攻科1年の「実践的デザイン工学演習」がそのひとつである。合宿を伴うチームワークによる実習で、寒河江市に出向き、その地域の課題を見つけ、解決策を提案するというものである。こうした授業は柔軟で小回りのきく高専が得意とするものであり、高専のエンジニアリング教育を特徴付けるものになる。

以上のように、特色ある様々な教育プログラムを提供することで高専は高度化を図っている。社会情勢の変化を先取りすることで、常に社会の要請に応えられる高専を目指している。



実践的デザイン工学演習での合宿

[専攻科]

Advanced courses

海外での研究発表で得るもの

—ケアンズ(オーストラリア)—

電気電子工学科教授 吉木宏之

2013年8月5日~9日までオーストラリアのケアンズで開催された21st International Symposium on Plasma Chemistry(第21回プラズマ化学国際シンポジウム、ISPC)に参加し、日頃鶴岡高専で学生と共に取組んできた成果の一部を発表してきました。ISPCは2年に一度開催されるプラズマ気体と固体・液体表面の物理・化学反応に関する国際会議で、これまでにアメリカ、ドイツ、日本等で開催されています。今回も世界各国から口頭・ポスター講演合わせて300件以上の講演がありました。

私の発表題目は『Modification of inner walls of a commercial microfluidic chip by pulsed microplasma treatment(パルスマイクロプラズマ処理による市販のマイクロ流路チップ内壁の改質)』というもので、クレジットカード程の大きさのプラスチック製チップに埋め込まれた直径百マイクロメートル(人間の頭髪の断面)程度の微小流路内にパルス高電圧放電でプラズマを生成して流路内壁を親水化処理する研究です。このマイクロ流路チップは血液検査などの医療診断で用いられるもので、蚊が吸う程度の微量な血液を高速で分析することが可能となります。血液などの液体サンプルをマイクロ流路に導入するためには内壁を親水化する必要があります。私達の研究目的はそれをマイクロプラズマで実現することで、科研費基盤研究Cの助成を受けて取り組んできました。

2時間のポスター講演では、私達の研究に興味を持った何人かの研究者が質問に訪れてきました。ポスター講演の良さは相手とじっくりと議論できることです。私は英語が得意ではありません。

What you gain from the presentation at overseas.
—Cairns, Australia—

ませんが、図表を前に思い付く英語表現を駆使して応じます。最後に質問者が納得した表情を見せたときはホッとなります。また、その場で名刺交換や関連論文を手渡せるのも利点です。海外の国際会議に参加していて『頭が少し英語脳になっているな』と思うことがあります。でも、私の場合は成田空港に降り立つと母国語脳に逆戻りするみたいです。

海外での国際会議参加のメリットは、世界の研究者にface to faceで情報発信できること、最新の研究動向を目の耳で感じることができること、海外の街並みや文化に少しだけ触れることがあります。私が訪れたケアンズは南緯17°に位置し熱帯雨林気候で、8月の南半球は冬季ですが半袖で過ごせ海水浴ができます。私も世界自然遺産に登録されて有名なグレートバリアリーフでシュノーケリングを楽しみました!!珊瑚礁がとても綺麗でした。皆さんも機会があれば海外に行き異文化を肌身で感じることをお勧めします。



(上から時計回り)海水浴場エスプラネード・ラグーン、コアラと会える熱帯雨林の村キュランダ、珊瑚礁に浮かぶグリーン島、国際会議場

Attended MEMS International conference with my student.
—Barcelona, Spain—

際会議での審査を通り、発表できることになったのです。

そんなどたばた劇を越えて、2013年6月16日から6月23日まで、スペインのバルセロナに「シリコンのエッチング微細加工に関する発表」を梅木君と一緒に行いました。成田空港からドバイ経由で20時間以上かけてたどり着きました。

バルセロナはスペイン第2位の都市で、オリンピックが行われたことや、ガウディの作品群(カサ・ミラやサグラダ・ファミリアなど)で日本人にもなじみがあると思います。国際会議は、ランプラス通りや旧市街から、少し離れた海辺の国際会議場で行われました。梅木君にとっては初めての英語でのポスター発表でしたが、本番で研究者の方々と堂々と渡り合う姿は素晴らしいものでした。私も最新動向を聞くことができたり、研究者と議論を進めることができたりと有意義な時間を過ごせました。より詳細な議論へと、英語力を更に向上させる機会を作らなければとも感じた次第です。今後も定期的に国際会議へトライしていくうと思いつつ、次回はアラスカだなあと。成田空港に無事に帰ってきて物語を終えた次第です。



バルセロナでの国際会議風景

T O p i C S

Co-op(コーオプ)教育 一地域密着型グローバルエンジニアの育成を目指して—

【CO-OP教育とは】

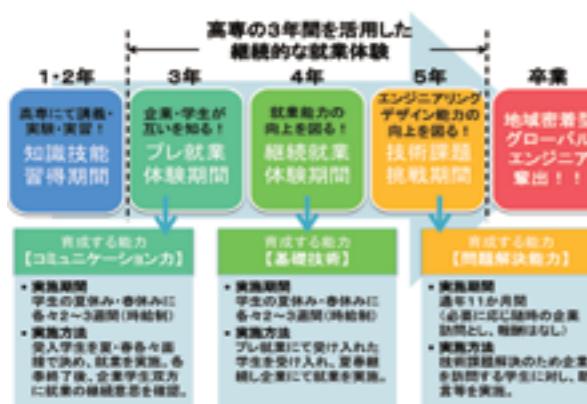
CO-OP教育とは、教育機関が企業と連携して進める人材育成の新たな取り組みです。学生が「校内での講義」と「企業での就業」を繰り返すことで、実践的な技術や開発力、コミュニケーション能力など、総合的な就業能力の向上を図ります。

北米では100年の歴史がある教育プログラムであり、日本では主に関西地区の大学が実施しています。高専では、徳島県の阿南高専が先駆的に実施しており、本校では2012年4月、CO-OP教育推進室を設置し、本格的に取り組みを開始しました。

【長期休暇を利用した企業との共同教育】

本校ではCO-OP教育を推進するため、「キャリア教育」の一環と位置付け、5年間一貫教育や実験・実習を重視した専門教育を行う高専の独自性を生かし、高専3年生から夏休み及び春休みの長期休暇を利用して、専門関連企業における仕事をステップアップしながら、5年生まで就業を行う下記プログラムを作成し、昨年度から実施しております。

また、地域企業を知るため、「地域企業展」への積極的参加、「企業訪問研修会」を実施しています。



鶴岡高専CO-OP教育プログラムの概要

【CO-OP教育プログラムの実績】

参加学生は、昨春及び今夏の長期休暇期間を利用し、それぞれ希望する企業で約2週間、就業を実施しました。

平成25年3月 企業1社・学生1名実施

- ・ティーピーアール(株) 学生1名就業

平成25年8月 企業7社・学生12名実施

- ・ティーピーアール(株) 学生1名就業
- ・ルネサス山形セミコンダクタ(株) 学生2名就業
- ・(株)庄内クリエート工業 学生2名就業
- ・(株)アライドテック 学生2名就業
- ・(株)佐藤鉄工所酒田事業所 学生2名就業
- ・(株)スタンレー鶴岡製作所 学生2名就業
- ・スズモト精密(株) 学生1名就業

【参加学生の感想】

- ・普段の学生生活では経験することが難しい体験ができると感じています。また今回CO-OP教育をさせていただいた企業は自分の専門と違う企業であり苦労する場面もあったが、メモを頻繁に取り、理解を図る努力をすることの重要性を再認識させられた。長期休業を有効に使うことができ、非常に良かったと思います。
- ・今回のCO-OP教育で強く印象に残っているのが「4S」についてです。工場での作業において、整理・整頓をこれほど重要視することに驚きました。実際にやってみると暑さや力作業などとても大変な思いをしましたが、やり終えた達成感と共に、このような細かい改善が作業効率や安全性に大きく影響し、会社の利益につながっていくことを、身を持って学ぶことができました。
- ・CO-OP教育では、インターンシップのような体験だけではなく、実際に勤務し給料を得るという、社会と同様の形式を取っています。その為仕事に対する責任感や取り組む姿勢が自分の中で高かったように感じました。意識の向上に間違なく貢献すると思うので、ぜひ来年以降もより規模を拡大して行って欲しいです。

【今後のCO-OP教育実施予定につきまして】

本年度3月春季休暇実施に向け、企業の皆様への募集及び学生への参加促進を進めてまいります。なお、同プログラムについてのウェブサイトを開設しておりますので、ぜひご一読下さい!

<http://coop.tsuruoka-nct.ac.jp/>



新任女性教員紹介

何か新しいこと

1月に赴任して2ヶ月、いくつかの初体験がありました。黒板とチョークの授業。まさか制服の学生さんを相手に授業をする日がくるとは思いませんでした。黒板授業はなかなか難しく、文字バランスの悪さに毎回反省しています。寮の宿直、大学時代に寮で暮らしたことはありますが、見張り番?の側を経験できるとは。この寮はとても規律が保たれているので、幸い今のところ出番はありません。こちらに赴任する前は大学の研究所で主に研究中心の仕事でしたので、制服を着た若い学生がたくさんいる雰囲気も新しい仕事内容もとても新鮮です。

私は、薬学部出身です。薬学部卒業後は病院や調剤薬局や製薬企業で働く人が多く、私も当時は病院で薬剤師として働くことを希望していました。絶縁曲折あり、結局今までに薬剤師の免許を使つた仕事には就いていません。大学の卒業研究で大き道が変わったと言えるかもしれません。とはいっても、卒研の研究室の選択はそこまで積極的な理由ではなく、なんとなく生物系がいい、小さい生き物がいい、くらいの気持ちで入門したのが微生物学研究室でした。結果的にはそこで触発され、進学、研究の道に進み、いくつかの研究機関を経て今に至ります。そして現在、高専で新たに研究室を立ち上げるチャンスをいただきました。冒頭に初めて体験のことを書きましたが、独立した研究室を持つのは今回が初めてになります。学生の1年間の研究体験が人生に大きな影響を及ぼすかもしれないと思つておきます。

思うと大変な責任を感じますが、そのくらいの刺激を感じることができます。研究室にしていきたいものです。研究室第1期生には大変なもしい学生がやってきたので、今後どんな展開になるか楽しみです。

鶴岡の生活は11年目になります。もともと関東出身ですが、自然や食べ物や人など生活を総合してとても鶴岡が気に入っています。勝手に第2の故郷だと思っています。前職の任期が終了した時に、鶴岡に暮らすこと、または研究・教育の職のいずれかを断念しなければならないと考えあぐねていました。そのいずれも逃さなくてよい環境に職を得ることができたのは本当に幸運だと思っております。少し異分野からまいりましたが、鶴岡高専のユニークな特徴と私の得意なことをうまく調和させて、ここで新しい何かができれば幸いと思っています。



物質工学科 森永 隆志

鶴岡高専NIMSサテライトラボより

本校がGREEN拠点賞特別表彰を受賞

鶴岡高専では、平成24年4月より、独立行政法人物質・材料研究機構内(NIMS)にサテライト研究室を設置し、ナノ材料科学環境拠点(GREEN)プロジェクトに参画しています。鶴岡高専NIMSサテライトラボでは、佐藤貴哉教授をグループリーダーとする“革新高分子電解質設計グループ”として、固体高分子形燃料電池やリチウムイオン二次電池、キャパシタ、太陽電池などに使用可能なマルチユース電解質の開発を行っています。また、GREEN短期リサーチアシスタント(RA)制度を活用して、NIMSでは初となる高専生を対象としたインターンシップを実施しています。このような組織的な連携が評価され、第2回GREEN拠点賞において、本校が特別表彰を受けました。

平成25年6月27日開催の第6回GREENシンポジウムにおいて、魚崎浩平GREEN拠点長(写真右)から、加藤校長(写真左)に賞状と楯が手渡されました。



平成25年6月27日開催の第6回GREENシンポジウムにおいて、魚崎浩平GREEN拠点長(写真右)から、加藤校長(写真左)に賞状と楯が手渡されました。

平成25年度インターンシップ実施報告

昨年度に引き続きNIMSサテライトラボに本校学生を短期RAとして受け入れ、インターンシップを実施しました。今年度は専攻科生も受け入れる体制を整え、8月25日～9月6日の2週間、佐藤貴哉教授の引率のもと合計8名の本校学生(専攻科生6名、4年生2名)が最先端の研究施設の見学、総勢20名以上の研究者によるセミナー、学生たちによる研究発表会などを通じてGREENの研究者の方々との交流を行いました。今回のインターンシップでは機械電気システム工学専攻の学生も参加し、学科横断的な幅広い取り組みとなりました。最後に、インターンシップの実施にご協力下さいましたGREEN研究者、運営統括室スタッフの皆様に、心より御礼を申し上げます。



社会で活躍する女子卒業生

今回は、機械工学科、電気電子工学科卒業後、社会の第一線で活躍するお二人を紹介します。

・2013年3月 機械工学科卒業
・就職先:GEヘルスケア・ジャパン

余語 麻瞳香

私は平成25年3月に機械工学科を卒業し、GEヘルスケア・ジャパンという医療機器メーカーに入社しました。現在は札幌で実際に医療機器に赴き、装置の修理や保守、設置作業などを行うサービス業務に従事しています。先輩に同行し、ひとり立ちに向けて勉強の日々を送っています。

在校生の皆さんに言葉を発信できる機会をいただいたので、私が社会人になってから感じたこと、みなさんに伝えたいことを3点ほど、お話ししたいと思います。

まず1点目。社会人になり、学生の頃より格段に増えたと思うのは「人前で話す」ということです。自己紹介はもちろん、日々の業務報告やプロジェクトプレゼンなど、様々な場面で話さなければならぬ機会が多くあります。相手は誰で、どんな形式で、制限時間はどのくらいで、自分は何を伝えたいのか。それらすべてをきちんと把握し、うまくまとめることは非常に難しいです。学生のうちに人前で話す機会があるなら、練習だと思ってどんどん挑戦してみてください。トータルスキルが身に付いていると、自分にとって、非常に大きなアドバンテージになると思います。

2点目は、とにかく自分でやってみることです。新人で右も左もわからず、不安もたくさん、緊張しっぱなし。ですが、わからないから指示を待って、ただトップダウンで言われたことを行っているだけでは、まったく仕事が身につかないことを実感しました。わからないながらも、聞しながらでも、自分で実際にやってみる。そうすると次は前回よりも少しだけ、できるようになっている自分がいます。「お、ひとりでできたじゃん。」という先輩からの一言が、こんなに嬉しいものだとは思いませんでした。自分ひとりでできる仕事はまだほんのわずかです。ですがこうやって少しづつ少しづつ積み重ねていくことが大切なだと日々感じています。

3点目、みなさんは自分の強みと弱みをきちんと理解できているでしょうか?自分にはなにが足りないのか、一方で自分のどこをもっと伸ばせるのかを明確にすることで、「今なにをすべきなのか」が見えてきます。私はこれがふわふわしている状態で学生生活を終えてしまい、社会人になつてから、自分の知識不足を痛感しました。もっと早く自分の足りない部分が理解できいたら、あらかじめ勉強ができたかもしれません。ぜひみなさんは学生の間に自分の強みと弱みについて考える機会を作ってみてください。今後の進路を考える上でもきっと役に立つと思います。

以上3点がみなさんにお伝えしたかったことです。環境が変わると、本当に日々が新鮮で、翻弄されます。それらはすべて経験で、無駄なことなんてないと思います。そういうればあんなこともやったなど、未来の自分が思い返すネタが尽きないように、今はたくさんの経験をしてください。視野を広く、学びを多く、みなさんに負けないよう私も努力していきたいと思います。



当社画像診断装置

Graduates' Today

があります。駆員さんの中には女性もいるため、この部分を使いづらいと感じる人がいるはずです。私は、男性よりも体力がないことでこの不便に気付くことができます。こんな風に女性の視点で機械を見て、少しでもお客様に使いやすいと思ってもらえるように保守をしていきたいと今は前向きに考えています。

私には二つの目標があります。一つ目は、機械についてもっと理解して自分の力で直せるようになります。まだ分からないことが多いので、機械を触る時も不安でいっぱいです。知識が増えてできることが増えたらきっと楽しくなると思います。仕事が楽しいと思えるようになるまで頑張りたいです。二つ目は、今の会社で五年以上働くことです。冒頭で述べた通り、体力的に辛い仕事です。これから先、もっと多くの仕事を任されるようになつたら辞めたいと感じてしまうこともあると思います。それでもふんばって経験を積み、仕事や会社について理解した上で自分の身の振り方について考えていくといたいです。

皆さんも社会に出て、仕事をするようになったら学生の頃とは違った悩みが一つや二つ出てくると思います。相談できる相手を見つけ、一人で解決できないと感じたら一人で悩まずに相談して欲しいです。また、社会人になると出来ることと出来ないことが変わってきます。学生のうちにしかできない経験をたくさんして、楽しい学生生活を送ってください。



[女子卒業生の今]

Female graduates' Today

We introduce the two of them being at the forefront of society, after completing the Department of Mechanical Engineering and the Department of Electrical and Electronic Engineering.

・2013年3月 電気電子工学科卒業
・就職先:オムロンフィールドエンジニアリング株式会社(東京都新宿区)

岩井 芙 美

鶴岡高専の皆さん、こんにちは。私は昨年度に電気電子工学科を卒業した岩井芙美と申します。私もまだ社会に出て日が浅く、分からぬこととだらけで毎日苦戦しています。その中で私が経験したことや思ったことを書かせて頂きたいと思います。社会で働くことは経験しなければわからないことがほとんどですが、少しでも働くことに対するイメージをつかんでもらい、将来に役立てていただけたら嬉しいです。

私は現在、駅にある改札機や券売機などの保守を行うカスタマエンジニア(以下CE)として働いています。同じ部署に現場でCEとして働く女性は私一人しかいません。また、現場では力仕事などもあり、配属された当時は自分にできるだろうかと体力面で不安に思うこともありました。しかし、会社の同期や先輩方と話す中で女性が少ない職場だからこそ、自分にしか出来ない仕事があるのではないかと思うようになりました。例えば、点検で機械を引き出す際に男性のCEにとっては何でもない重さでも、私にとっては引き出すのに苦労してしまう部分

卒業生の今

Graduates' Today

当社画像診断装置

当社画像診断装置

Courses after Graduation of school year 2013 as of October 1, 2013.

The ratio of students who go on to higher schools is decreasing by 5 points. In employment, 23% has got jobs in Yamagata prefecture. Compared to the same period of the last year, the ratio of job offer has increased making a slight recovery of employment environment.

平成25年度の進路状況

(10月1日現在)

平成25年度(平成25年10月1日現在)、クラス毎の進学希望者の割合は、機械工学科(M科)23%、電気電子工学科(E科)26%、制御情報工学科(I科)38%、物質工学科(B科)43%で、昨年度に比べて全体で5ポイント減少し31%となりました。進学先は本校専攻科が約5割、長岡・豊橋の両技術科学大学が約3割、筑波大学や新潟大学などの国立大学が約2割となっています。また、専攻科からは豊橋技術科学大学大学院に進学する学生がいます。

就職状況では、本科の就職内定者全体の23%が県内企業に、77%が県外企業に内定しており、昨年度に比べて本科の県外就職者の割合が高く、全体で県外就職者の割合が10ポイント以上増加しているのが特徴です。また、平成26年3月卒業・修了予定者の就

職内定率については、例年どおりほぼ順調に推移していると言えます。

求人状況については、本科の求人倍率は昨年度の同時期に比べて0.4ポイント減少していますが、求人企業数は62社増加しており、専攻科の求人倍率も0.5ポイント増加していることから、ここ数年続いた景気の停滞から少しずつ回復しつつあり、就職環境の改善が認められます。

本校では、OB・OGによるインターンシップ講演会、外部講師によるキャリア支援講演会を毎年実施するなど、企業側が求める即戦力となる学生の教育や、産業界の動向に関する情報の収集を積極的に図り、学生の質の向上に努めます。 [キャリア支援室]

【進学内定先】(人数は重複合算を含む)

鶴岡高専専攻科	28名	東京農工大学	1名	新潟大学	3名	豊橋技術科学大学	1名
長岡技術科学大学	10名	電気通信大学	1名	福井大学	1名		
豊橋技術科学大学	8名	筑波大学	2名	山口大学	1名		

【就職内定先】(●は県内企業)

建設業	大日精化工業㈱	株椿本チエイン
	中外製薬工業㈱	㈱前川製作所
	東燃化学合同会社	㈱森精機製作所
●三和メイテック㈱	東洋インキSCホールディングス㈱	電気機械器具
日本オーチス・エレベーター㈱	●東和薬品㈱	●伊藤電子工業㈱
日立アプライアンス㈱	日弘ピックス㈱	●㈱ウエノ
㈱日立ビルシステム	㈱日新化学研究所	●オリエンタルモーター㈱
食料品	●水澤化學工業㈱	京セラ㈱
サントリープロダクツ㈱	㈱三井化学分析センター	●㈱スタンレー鶴岡製作所
㈱マルハニチロホールディングス	三菱ガス化学㈱	㈱東芝
●丸菱食肉㈱	ライオン㈱	富士ガス㈱
㈱明治関西工場・関西アイスクリーム工場	石油・石炭製品	古川電気工業㈱
㈱明治坂戸工場	出光興産㈱	㈱三鈴エリー
㈱明治戸田工場	極東石油工業合同会社	輸送用機械器具
森永乳業㈱利根工場	東亜石油㈱	本田技研工業㈱
森永乳業㈱福島工場	東燃ゼネラル石油㈱	●マーレインジコンボネンツジャパン㈱
山崎製パン㈱	富士石油㈱	●ティービーアール㈱
雪印メグミルク㈱	鉄鋼業	精密機械製造
理研ビタミン㈱	●㈱山陽精機	●㈱アライドテック
織維工業	運輸通信業	コニカミノルタビジネスソリューションズ㈱
旭化成㈱	東海旅客鉄道㈱	●東北エプソン㈱
日清紡ホールディングス㈱中央研究所	東日本旅客鉄道㈱	●ミクロン精密㈱
化学工業	金属製品	●山形クリエイティブ㈱
D I C㈱	大和製罐㈱	その他
●大阪有機化学工業㈱	一般機械器具	D O W A ホールディングス㈱
花王㈱	㈱I H I	●アリオンテック㈱
協立化学産業㈱	●㈱佐藤鉄工所酒田事業所	●加藤総業㈱
㈱資生堂	●㈱シンクロン鶴岡工場	●高島産業㈱
大正製薬㈱	ダイキン工業㈱	庄内工場
		田中サッシュ工業㈱

25年度 卒業・修了予定者進路状況

学 科 名	卒業・修了 予定者数	進 学 予定者数	就 職 予定者数	就職内定者数内訳			その他 自 営	求 人 企 業 数	求 人 人 数	求人倍率
				県 内	うち庄内地区	県 外				
機 械 工 学 科	43	11	31	7	5	21	1	—	224	7.2
電 气 電 子 工 学 科	42	12	30	4	2	25	0	—	248	8.3
制 御 情 報 工 学 科	41	13	28	7	3	18	0	—	167	6.0
物 質 工 学 科	39	17	22	5	3	12	0	—	96	4.4
合 计	165	53	111	23	13	76	1	661	734	6.6
専 攻 科	20	1	19	5	2	11	0	660	405	21.3

Photo Album



入学式



1年 校外研修



オープンラボを理事長が視察



中学生対抗エコロボコン



ものづくり体験講座



4年 工場見学



親子で楽しむ科学フェスタ



卒業式・修了式

年間行事

- | | |
|-----|---|
| 4月 | 入寮式
オリエンテーション
入学式
寮春季クリーン作戦
寮生総会 |
| 5月 | 寮生避難訓練
学生会総会
1年校外研修
中学校招待体育大会
校内体育大会
芝桜完成披露式 |
| 7月 | 東北地区高専体育大会
生活指導講演会 |
| 8月 | 中学生一日体験入学
中学生対抗エコロボコン
親子で楽しむ科学フェスタ
全国高専体育大会(剣道競技を主管) |
| 9月 | 防災訓練
寮祭 |
| 10月 | 寮生避難訓練
ロボコン東北大会
ラグビー東北大会
創立50周年記念式典・祝賀会
鶴峰祭
プロコン本選 |
| 11月 | ものづくり体験講座
4年工場見学 |
| 12月 | 寮生体育大会 |
| 1月 | 2年スキー授業
寮生会総会 |
| 2月 | 卒業研究発表会
専攻科研究発表会 |
| 3月 | リーダーシップセミナー
卒業式・修了式 |

発行●平成26年1月 鶴岡工業高等専門学校広報委員会 〒997-8511 鶴岡市井岡字沢田104

本校ホームページ <http://www.tsuruoka-nct.ac.jp/>では、

「鶴岡高専通信—保護者の皆様へ—」として、タイムリーな情報をお届けしております。